

平成 29 年度

「市民による個別事業評価」

結果報告書

平成 30 年 1 月

秋 田 県 大 仙 市

目 次

1 調査概要	1
1.1 調査の目的について	2
1.2 調査の対象、手法、期間について	2
1.3 調査の内容について	2
1.4 回収結果について	3
1.5 集計・分析上の注意事項について	3
1.6 回答者の属性について	3
2 調査結果・今後の取り組み	7
2.1 「雇用や就労のための支援事業」について	8
2.2 「農業の担い手支援事業」について	18
2.3 高齢者の「生活支援体制整備事業」について	24
2.4 「地域や生活の実情に即した公共交通の整備」について	29
2.5 「高齢者等雪対策総合支援事業」について	34
2.6 「グローバルジュニア育成事業(外国語指導助手等招致事業)」について	38
2.7 「移住・定住への支援」について	42
3 自由意見（分野別）	47
4 資料【平成 29 年度「市民による個別事業評価」調査票】	59

1. 調査概要

1.1 調査の目的について

市が実施している事業等に関する市民の意識、評価、要望を調査・分析し、その結果を施策に反映させていくことで、効果的かつ効率的な市政運営に結びつけるとともに、調査報告を通して多くの市民に市の施策を周知し、市政運営に対する理解と市民との協働のまちづくりに向けた意識醸成を図ることを目的とする。

1.2 調査の対象、手法、期間について

(1) 対象

18歳以上の市民の中から無作為に抽出した1,100人（性別、年齢、地域については考慮）

(2) 手法

郵送アンケート（無記名回答）方式

(3) 期間

平成29年9月8日（金）～平成29年9月29日（金）

1.3 調査の内容について

本調査では、市が実施している事業をテーマとして設定した以下の設問項目について調査した。

◆対象事業一覧

テーマ	設問	概要
雇用や就労のための支援事業	6問	市の雇用就労支援制度、若者の就職支援に必要な取り組みについて
農業の担い手支援事業	5問	新規就農研修施設、新規就農者確保のための取り組みについて
高齢者の「生活支援体制整備事業」	3問	高齢者を地域で支え合う仕組みや可能性について
地域や生活の実情に即した公共交通の整備	4問	乗合タクシー制度について
高齢者等雪対策総合支援事業	4問	雪対策総合支援事業の利用について
グローバルジュニア育成事業	3問	外国語指導助手について
移住・定住への支援について	5問	移住定住者への支援について

1.4 回収結果について

回収数…………… 587人

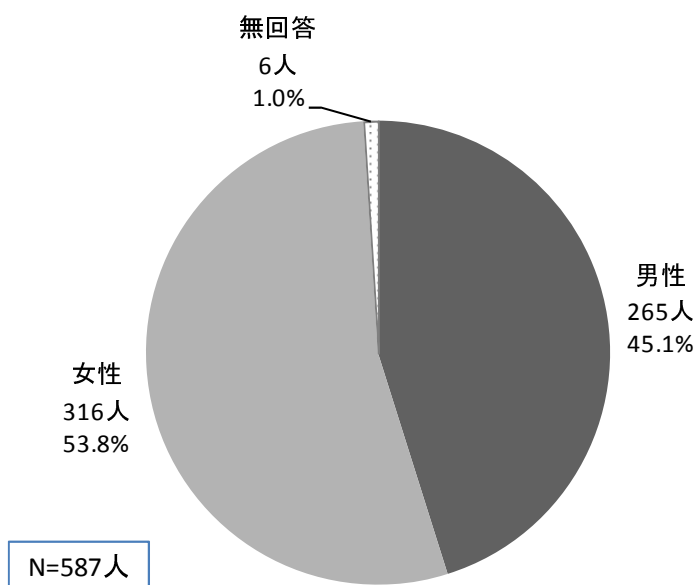
回収率…………… 53.4%

1.5 集計・分析上の注意事項について

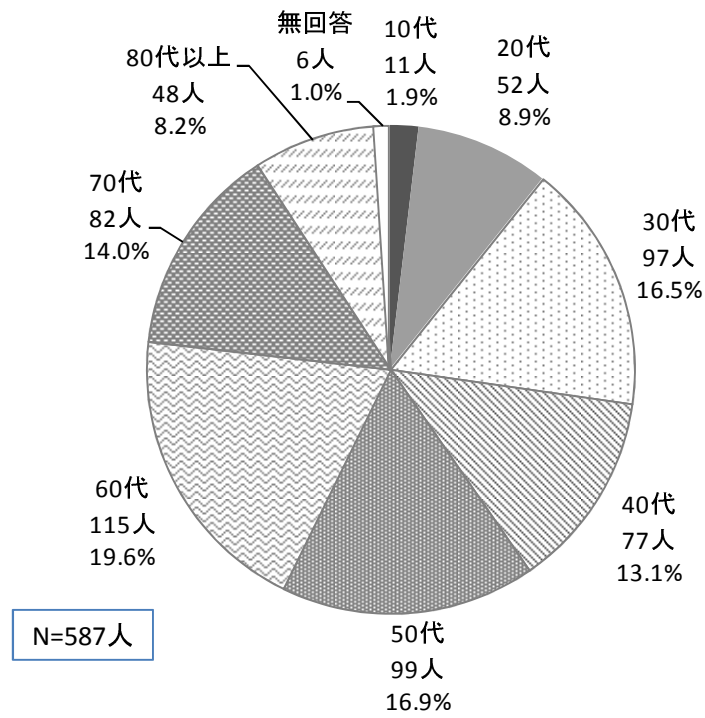
- ・ 本調査で対象とした調査回答者数（有効回答数）は 587 であるが、調査項目によって無回答を除いた「N」で表記しているため、各設問の有効回答数Nは異なる。
- ・ 各区分における集計では不明者を除いているため、区分ごとの集計対象者の合計と、全体の集計対象者の合計は一致しないことがある。
- ・ 単一回答の設問における構成比（%）は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計は必ずしも 100.0%になっていない場合がある。
- ・ 複数回答の設問における構成比（%）は、集計対象者に対する回答者数の比率を示すものであり、その合計は 100%を超えることがある。

1.6 回答者の属性について

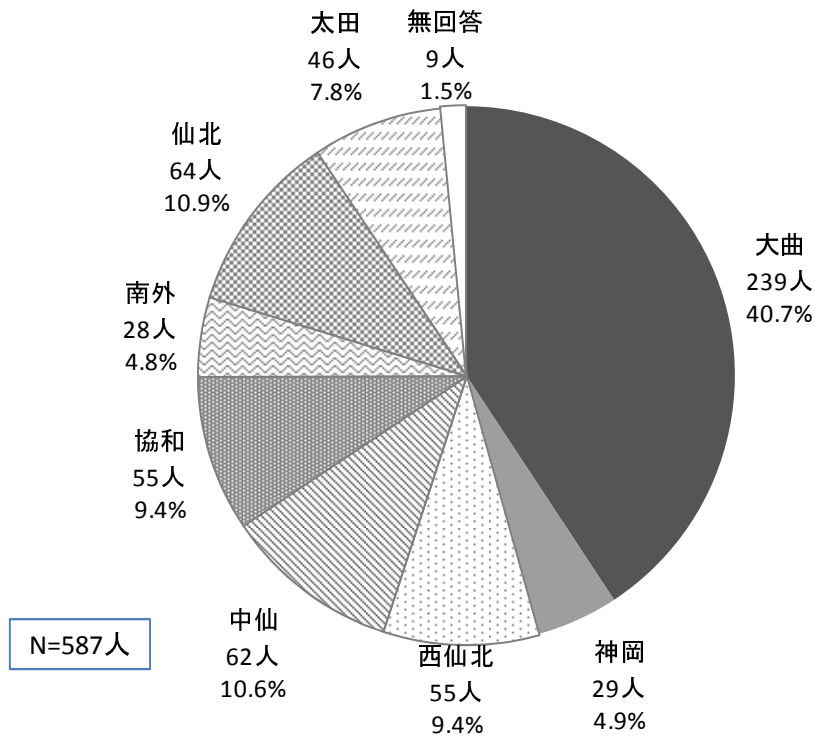
■ 回答者の性別の内訳



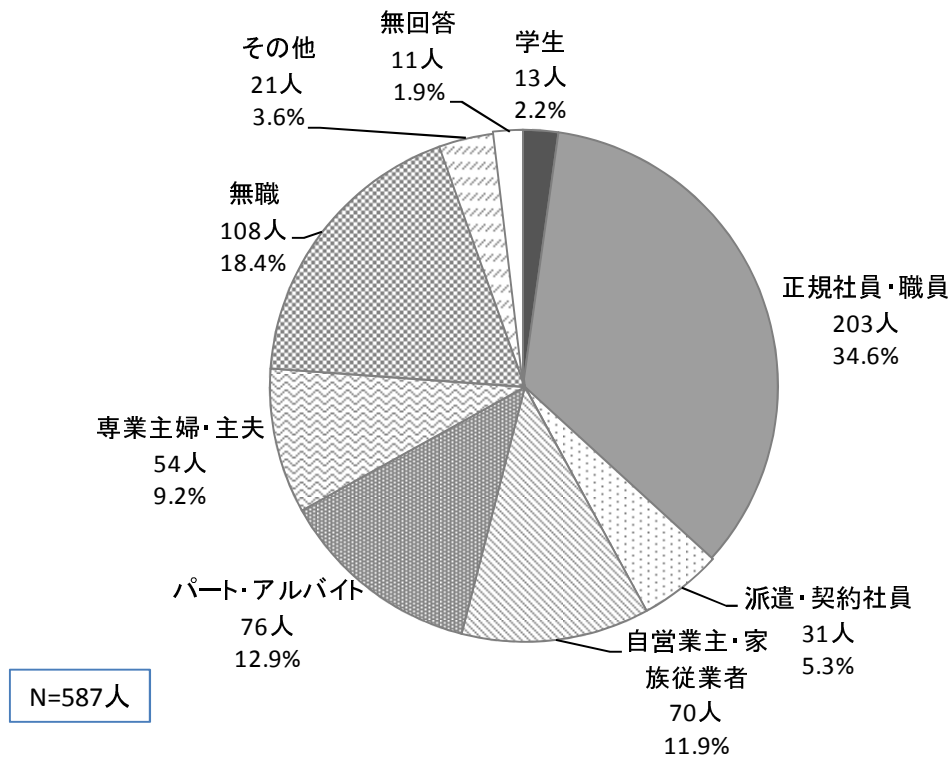
■ 回答者の年齢の内訳



■ 回答者の居住地の内訳



■ 回答者の職業の内訳



2. 調査結果【テーマ別】

2.1 「雇用・就労についての支援事業」

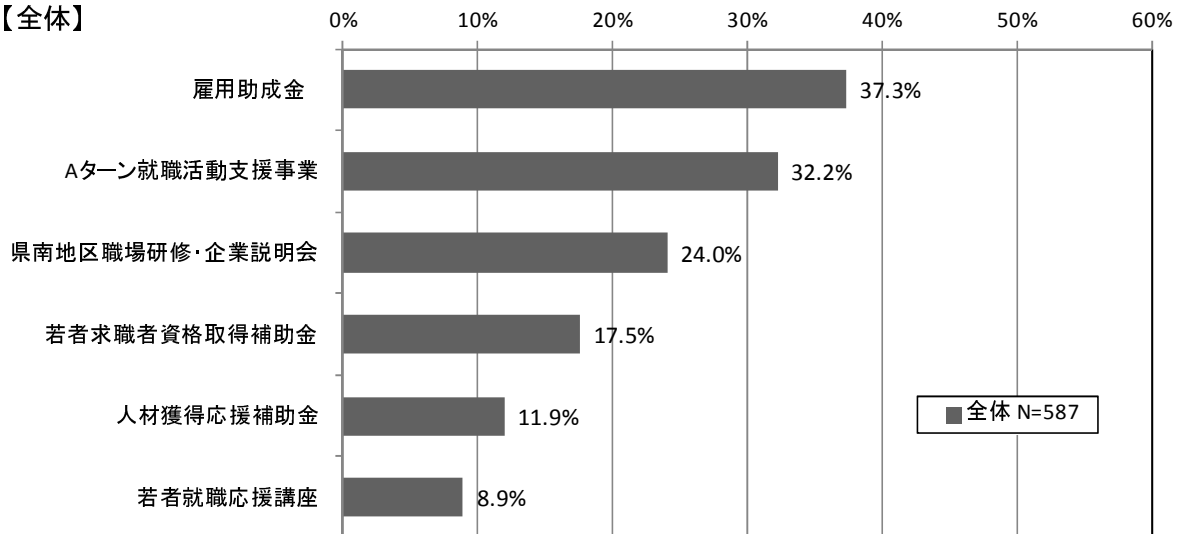
(経済産業部企業商工課)

◆ 調査目的：市が実施している雇用・就労に関する支援制度や地元企業が、どの程度市民のみなさんに知っているか、また、若者はどのような条件が整えば地元で就職しようと考えているかを調査する。

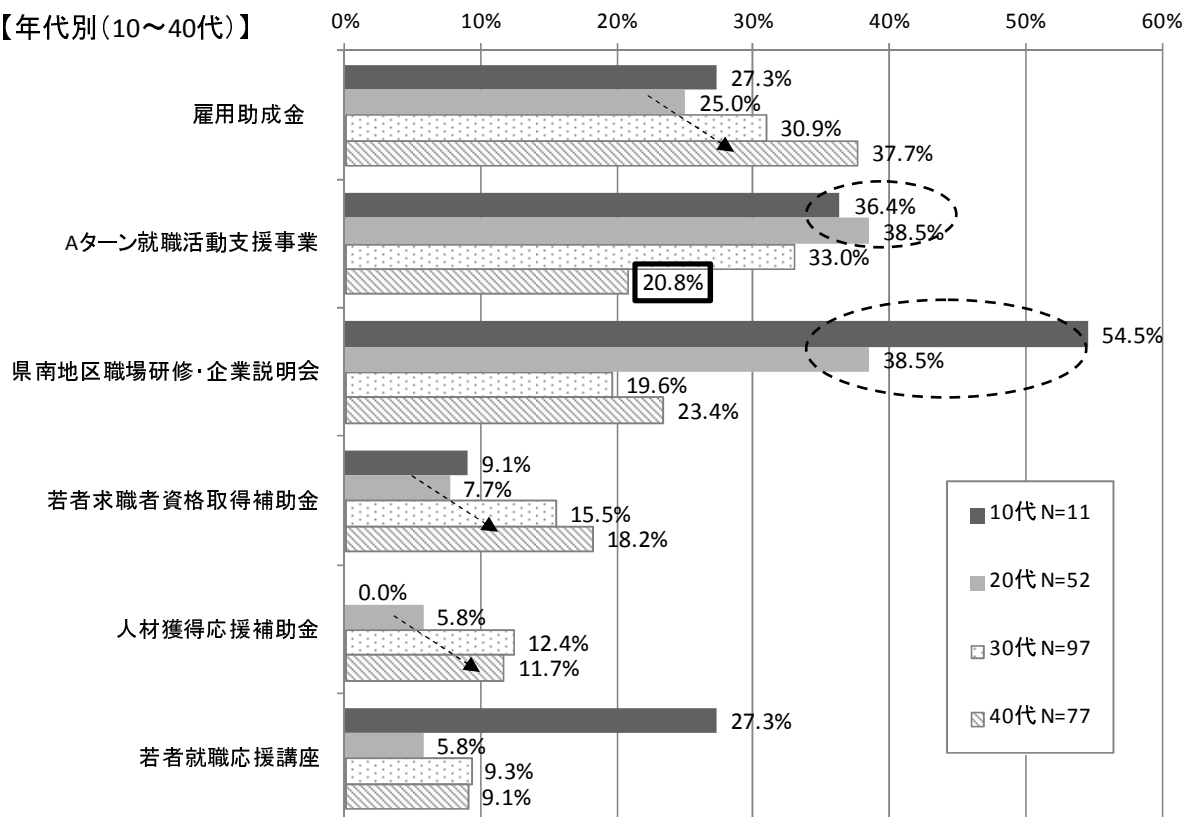
◆ 調査対象：全体、特に10～40代

問1 大仙市が実施している雇用・就労に関する支援制度について、知っているものの番号すべてに○印をつけてください。

【全体】

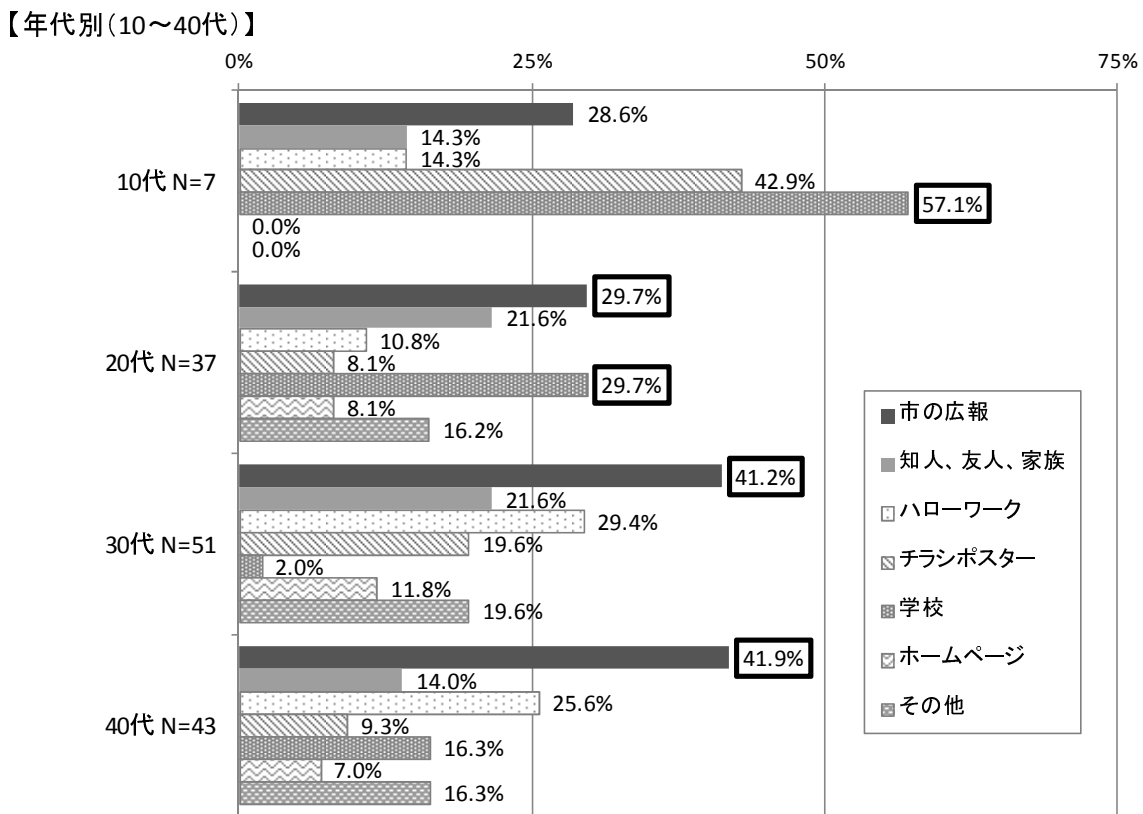
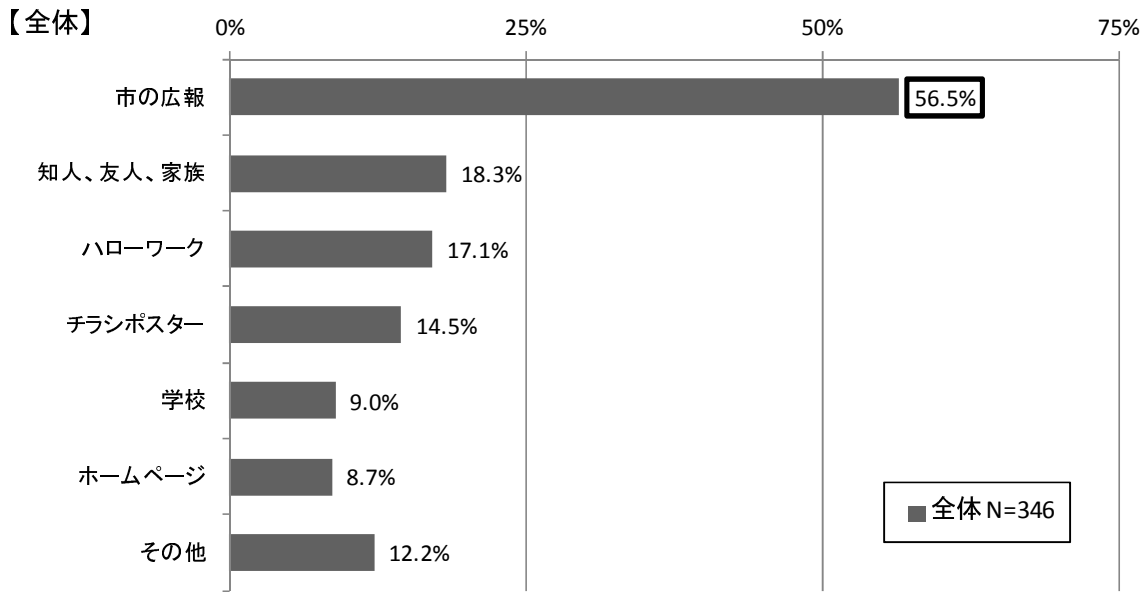


【年代別(10～40代)】



- 全体で最も認知度が高い雇用・就労支援制度は、「雇用助成金制度」で 37.3%、次いで「Aターン就職活動支援事業」が 32.2%となっており、最も認知度が低い支援制度は、「若者就職応援講座」で 8.9%となっている。
- 最も認知度が高い「雇用助成金制度」でも 4 割に達しておらず、全体における各制度の認知度は高くない。
- 全体の認知度の傾向と年代別（10代～40代）を比較すると、年代によって認知度の傾向が異なっている。特に、10代、20代は全体の認知度の傾向とは異なり、「Aターン就職活動支援事業」「県南地区職場研修・企業説明会」の認知度が全体より高い。
- 「Aターン就職活動支援事業」では、10～30代で認知度が3割を超えるが、40代では 20%となっている。
- 年代別（10代～40代）では、「雇用助成金制度」「若者求職者資格」「人材獲得応援補助金」は、年代が高くなるにつれて認知度が上がる傾向が見られる。

問 1-1 市が実施する雇用・就労施策に関する情報をどこで知りましたか。該当する番号すべてに○印をつけてください。（問 1 でいずれかの制度を知っている回答者が回答）

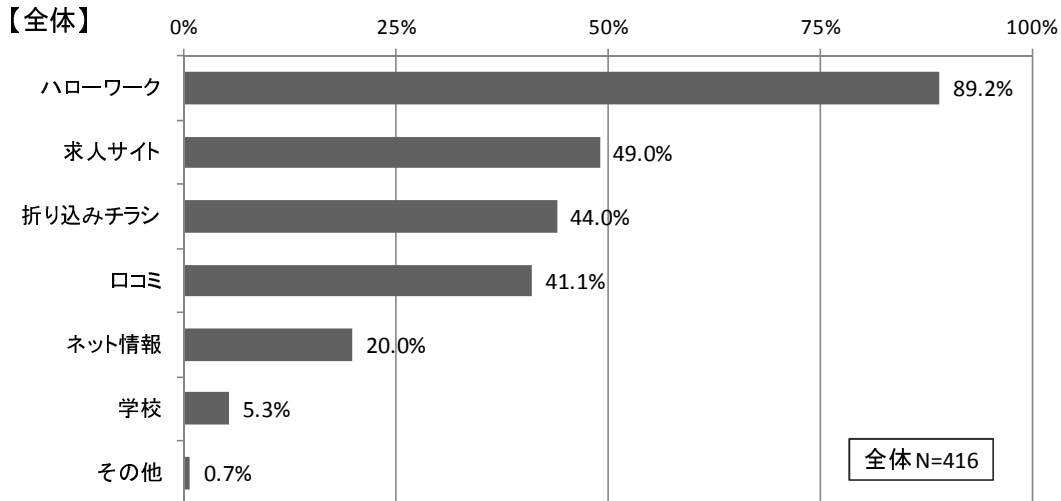


「その他」の意見

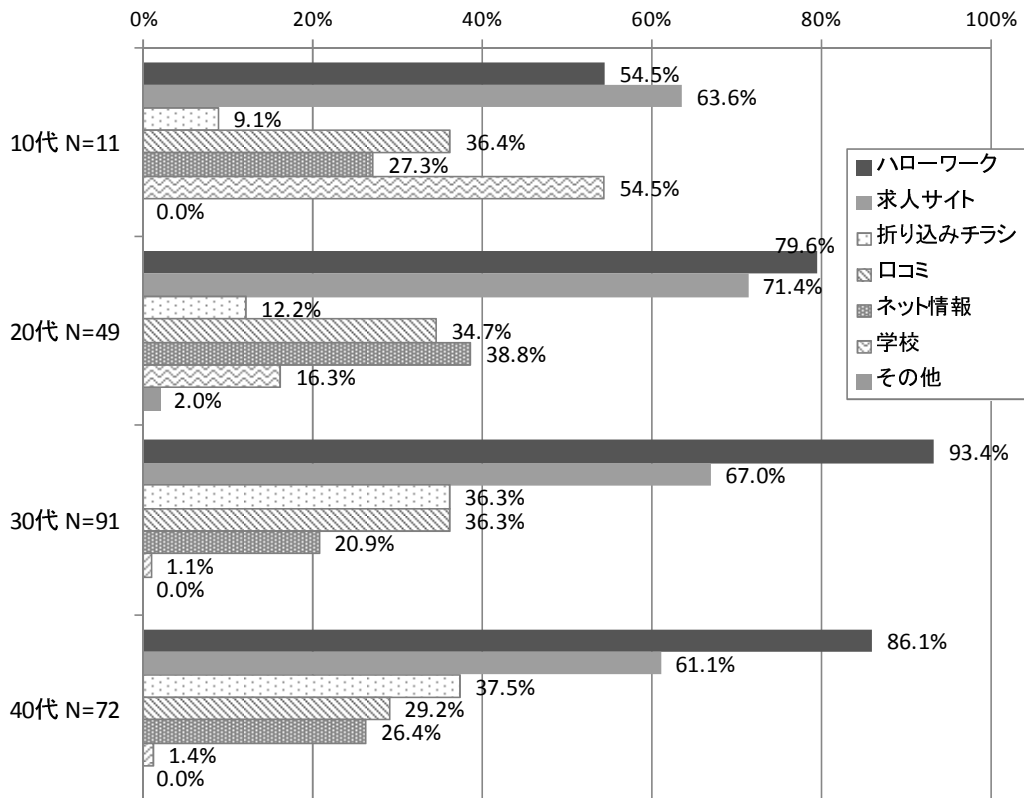
- ・以前の職場、職場 (14人)
- ・テレビ (13人)
- ・新聞 (6人)

- 全体では、情報を得た人の割合が最も多い媒体は「市の広報」で**56.5%**、次いで「知人、友人、家族」の**18.3%**となっており、「市の広報」は他の媒体と比較すると突出して多い。また、情報を得た人の割合が最も少ない媒体は、「ホームページ」で**8.7%**となっている。
- 年代別（10代～40代）では、10代、20代で「学校」が最も多く、全体で最も情報源として多かった「市の広報」は、20代で「学校」と並び**29.7%**、30代、40代では**40%**程度となっている。
- 「ハローワーク」と回答した方が30代で**29.4%**、40代で**25.6%**と、全体の**17.1%**と比較すると**10**ポイント以上高い。
- 全体での事業の情報を得たものが「市の広報」が**5割**を超えているのに対し、10代～40代では多くても**4割**程度となっている。問1の事業の認知度では、全体と10代～40代とが大きく違ってないことから、若い世代では、情報を「市の広報」だけでなく多様な手段で入手していることが考えられる。

問2 あなたが今から求職活動を行う場合、どこで情報を仕入れますか。(最大3つまでに○)



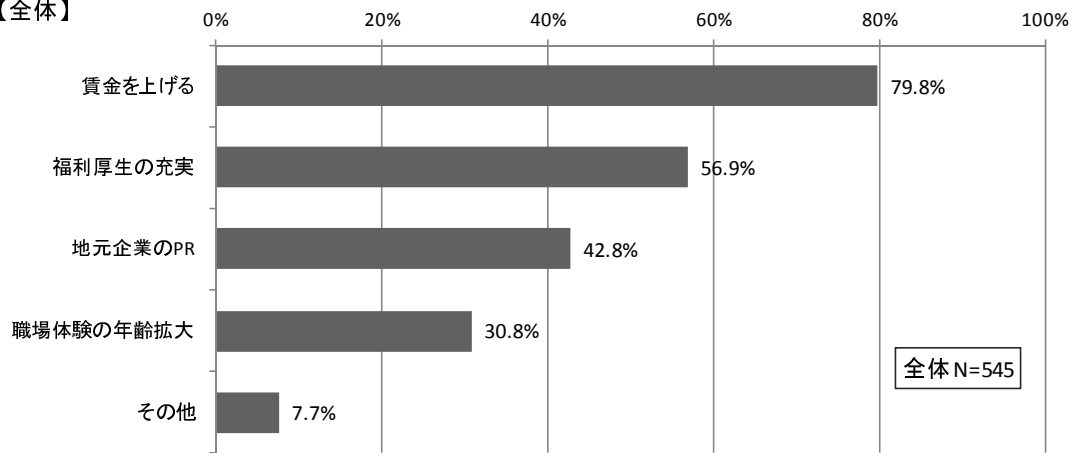
【年代別(10代~40代)】



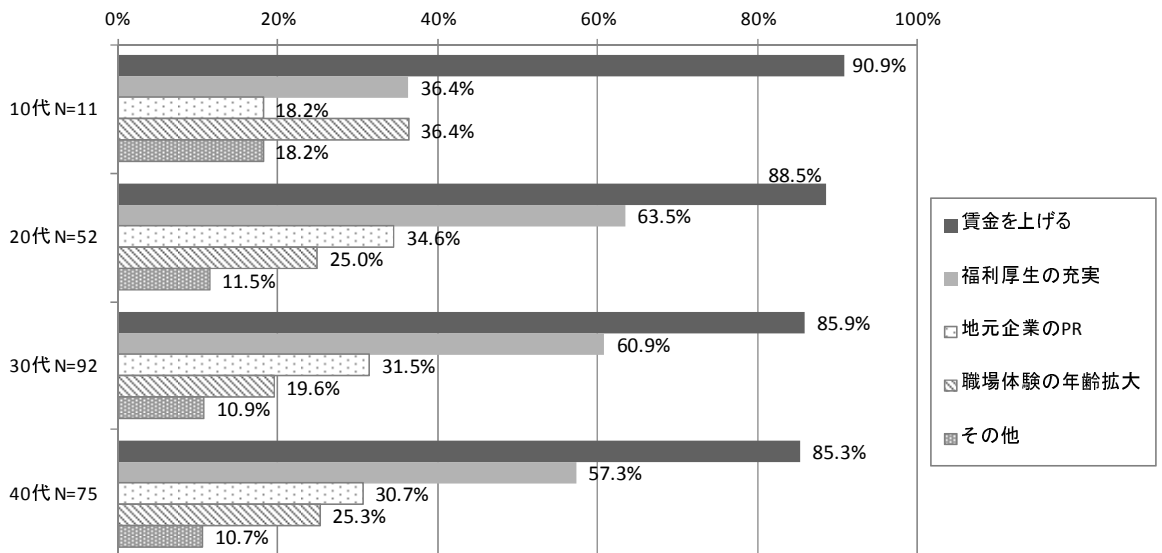
- 全体では、「ハローワーク」が最も多く 89.2%となっており、9割近い方が求職活動では「ハローワーク」を利用している。
- 全体で二番目の「求人サイト」は 49.0%となっており、「折り込みチラシ」44.0%、「口コミ」41.1%が続いている。
- 年代別(10代~40代)では、20代~40代で「ハローワーク」が最も多く、30代ではその割合が最も多く9割を超える 93.4%が「ハローワーク」を求職活動の情報源としている。
- 年代別の10代から40代では、「求人サイト」が6割を超えており、半数以上の方が「求人サイト」で求職情報を入手している。特に20代では、「ハローワーク」が79.6%、「求人サイト」が71.4%となっており、「ハローワーク」と同様に「求人サイト」が利用される割合が高い。

問3 若者が市内に就職するため必要な取り組みは何だと思いますか。（複数回答可）

【全体】



【年代別（10代～40代）】



「その他」の意見

◆企業誘致

- ・企業誘致（60代/男性、30代/男性、40代/男性、40代/男性、30代/男性）
- ・人気の高い企業の誘致→地元で就職する（30代/男性）
- ・大手企業の工場やデータセンターの誘致（賃金が都会並みに高いもの）（10代/男性）
- ・社員登録の拡大、大手企業の誘致（50代/女性）
- ・知名度のある企業誘致、大学誘致（60代/男性）
- ・若者が県内に定住できる職場の誘致（70代/男性）
- ・企業をふやす、大手の誘致（40代/女性）
- ・働ける企業の確保、誘致（60代/女性）

◆職種に関して

- ・業種による求人のかたよりを少なくするべき（30代/男性）
- ・職種の充実（40代/男性）
- ・希望する職業が少ないと思う（70代/女性）
- ・多種多様な職種の起業がしなければ県外に流れて行ってしまう（30代/男性）

◆既存企業の改善

- ・企業の底上げ。企業にもっと余裕や安定がないと雇用自体が難しい。(30代/女性)
- ・働きやすい企業をふやす(40代/女性)
- ・職場の環境、居心地の良さ(20代/女性)
- ・働く人を大切にできるような企業主の体制(40代/女性)
- ・若者の意見を聞く姿勢を持つ。個性を理解し指導する。経営者の意識改革、特に「人の使い捨て」「経営者の利益を優先し社員の利益を考えない」経営者を見つけ出し、指導・厳しく罰する取組が必要(50代/女性)
- ・市内企業の業績向上の他社との差別化を図り、魅力をアピールする(20代/男性)
- ・定年後の者がいつまでも在籍して若者採用の妨げになっている(50代/男性)
- ・企業が採用人数を増やせるような行政の手助け(50代/女性)
- ・大学や資格に見合う企業を増やすこと(50代/女性)

◆求職、斡旋

- ・就職の拡大(60代/男性)
- ・仕事の斡旋(50代/女性)
- ・仕事の探し方を支援すること(30代/男性)
- ・せっかく国際教養大があるので外国語を使う仕事や、これから必要になる介護などの職業など何かの仕事に特化して求職をしてみる。他県をまねて、市で土地を買い取り移住者や世帯主が35歳以下を対象に安く貸す(20代/女性)
- ・そもそも求人が少ない(30代/女性)
- ・働く場所の確保(40代/女性)

◆まちづくり

- ・町おこし(20代/男性)
- ・若者の遊び場を増やすことで市外県外に出て行く人も少なくなると思う(30代/男性)
- ・もっと若者が集まる娯楽施設を作る(30代/男性)
- ・市内に住んでもらうためテーマパーク整備、遊べる所を増やす(30代/男性)
- ・若者の視点から、会社内部の発展はもちろんだが、街そのものが発展しなければまず「住みたい」と思えない(20代/男性)

◆教育

- ・工場や職場の見学(60代/男性)
- ・高校生のうちにアルバイトをさせる、納税の義務の教育(40代/女性)

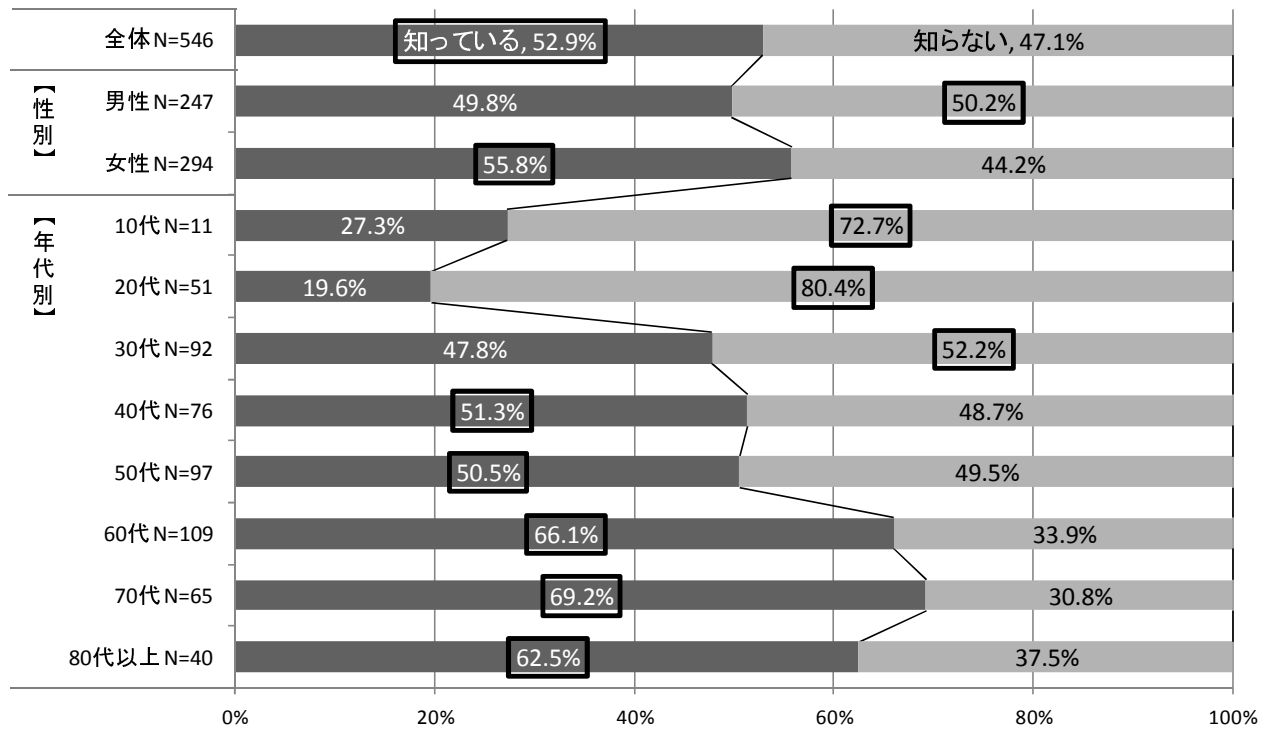
◆その他

- ・若者の流出を止めるための策を講じることが先(80代以上/女性)
- ・県外へ進学した学生へ地元企業のPRをもう少しすると良いと思う(10代/女性)
- ・住居環境、娯楽施設、給与条件の総合整備(50代/男性)
- ・ワークライフバランス、育児支援、都会よりも魅力を感じるもの(20代/女性)

○全体では、「賃金を上げる」が79.8%で最も高く、次いで「福利厚生充実」が56.9%となっている。

○年代別(10代~40代)では、いずれも「賃金を上げる」が最も高く、10代で90.9%、20代から40代でも85%を超える方が「賃金を上げる」が最も必要な取り組みだと考えている。

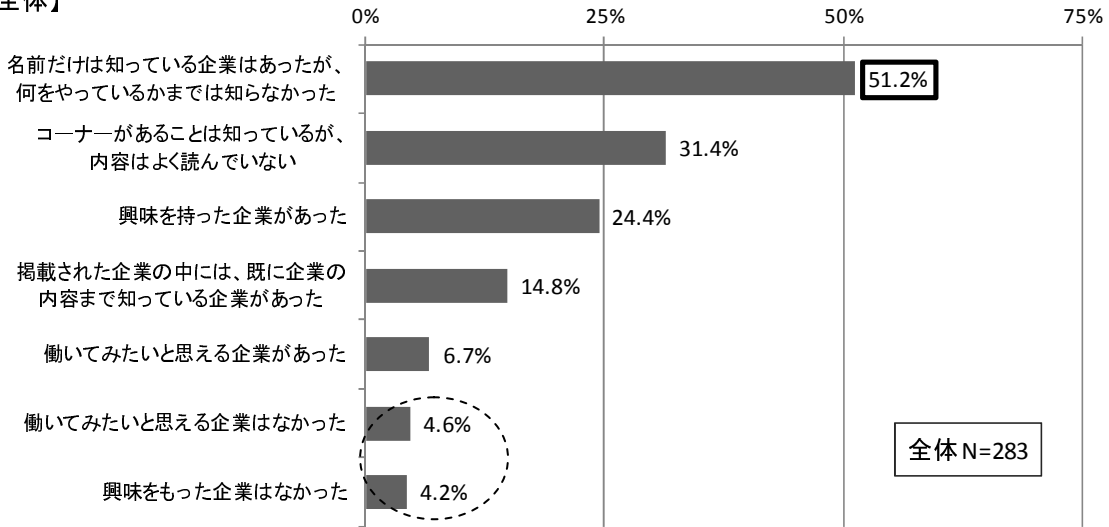
問4 広報「だいせん日和」で、大仙市内のものづくり企業（製造業の企業）を紹介している「だいせんものづくり図鑑」のコーナーがあることを知っていましたか。



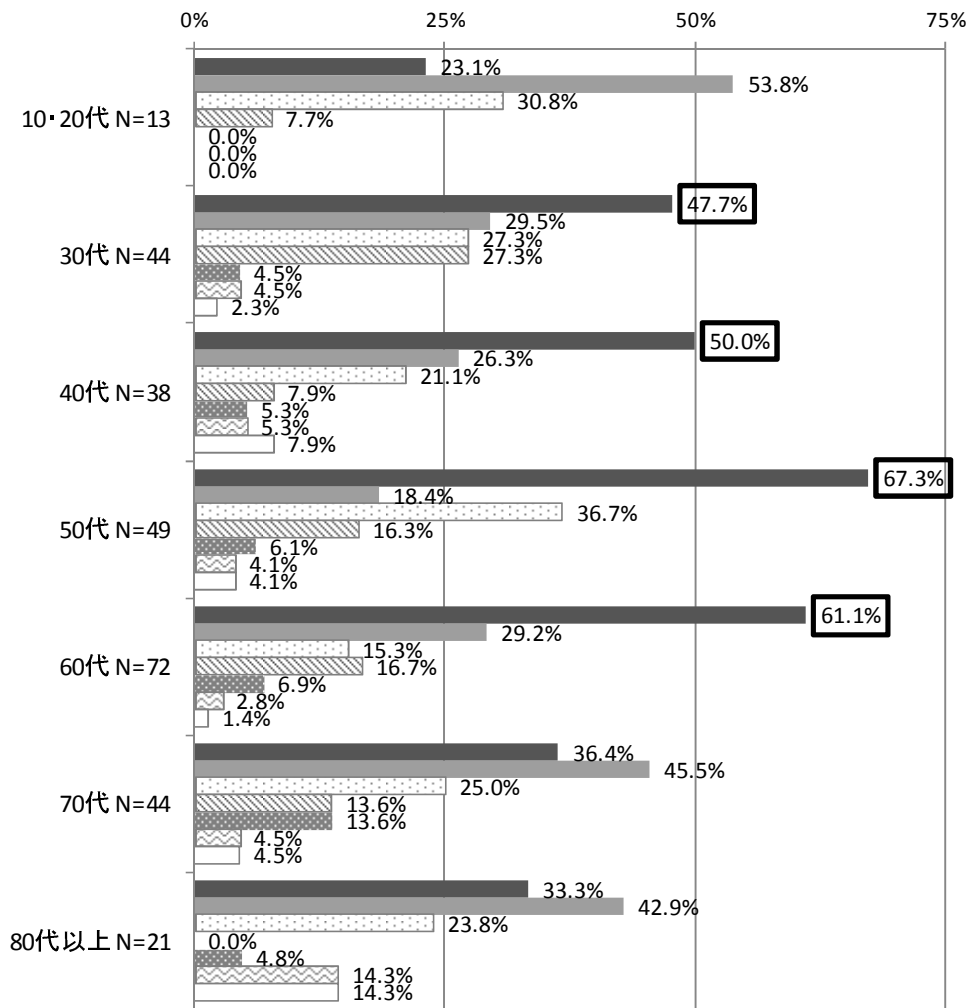
- 全体では、「知っている」と回答した方が 52.9%、「知らない」と回答した方が 47.1%となっており、半数を超える方が当コーナーを知っていることがわかる。
- 性別では、「知っている」と回答した割合は男性より女性の方が 6 ポイント多く、女性の方が当コーナーを知っている割合が多い。
- 年代別では、10代 20代 30代までは、「知らない」と回答した方が多く、特に 10代 20代ではその認知度は 3割を下回っている。
- 30代から 50代では約 5割が「知っている」と回答しており、60代以上になると急激に認知度が上がり 6割を超えている。

問 4-1 (問 4 で「知っている」と回答した方) 当コーナーを読んだあなたの感想としてあてはまるものはどれですか。(複数回答可)

【全体】



【年代別】



- 名前だけは知っている企業はあったが、何をやっているかまでは知らなかった
- ▨ コーナーがあることは知っているが、内容はよく読んでいない
- 興味を持った企業があった
- ▤ 掲載された企業の中には、既に企業の内容まで知っている企業があった
- ▧ 働いてみたいと思える企業があった
- 働いてみたいと思える企業はなかった
- 興味をもった企業はなかった

- 全体では、「名前だけは知っている企業はあったが、何をやっているかまでは知らなかった」と回答した方が最も多く 51.2%となっている。
- 全体で、「働いてみたいと思える企業はなかった」は 4.6%、「興味を持った企業はなかった」は 4.2% となっており、否定的な感想を持った方は少ない。
- 年代別では、30代から60代で「名前だけは知っている企業はあったが、何をやっているかまでは知らなかった」と回答した方が最も多く、当コーナーは、あまり知られていない市内企業の紹介コーナーとして一定の役割を果たしていると考えられる。

◆ 調査結果のまとめおよび今後の方針

- 市の雇用・就労支援制度の認知度については、年代によって傾向に偏りがあるが、企業向けの支援制度であるため若い世代の認知度が低かったり、高校と連携して実施している「県南地区職場研修・企業説明会」や「若者就職応援講座」は若い世代の認知度が必然的に高かったりするものもある。
各種支援制度は、全体的な認知度向上が必要であるが、必要な人に必要な情報が届くようにすることが重要であるとする。今年度から実施している「Aターン就職活動支援事業」は、認知度としてあまり高くはないものの、他の支援制度と比較すると上位にあり、学校への周知、Aターンイベントでのチラシ配布などのPR活動の効果が上がっていると考えられる。同事業については、更なる認知度向上に努め利用を促進するとともに、他事業についても、内容に応じて、多面的に、かつ若年層を意識して時代に応じた情報提供方法を検討していく。具体的には、QRコード（スマートフォンなどで即時にウェブサイトアクセスできるコード）を掲載したチラシを作成する、大仙市公式 Facebook 等の SNS や市のホームページを積極的に利用する、求職者の多くが利用するハローワークと情報交換を密に行い情報発信をするなどして、認知度向上に努める。
- 若い世代の就職活動については、保護者等周囲からのアドバイスも重要な要素の一つであるため、現在高校生向けに実施している「地元企業説明会」を保護者の参加も可能とすること、また、高い年代で一定の認知度がある広報誌の「だいせんものづくり図鑑」コーナーでの地元企業紹介を引き続き実施し、地元企業の理解を深めるきっかけづくりを行っていく。
なお、この「だいせんものづくり図鑑」コーナーについては、企業側からも自社PRに有益と好評の声をいただいていることから、企業の事業内容を通して市民に市内企業の魅力を伝えていく手段として発展させ、当広報記事を紙面のみに留めることなく、大仙市公式 Facebook 等の SNS やホームページによる情報発信を行うこと、また現在の大仙市企業情報データベースのリニューアルを併せて行い、認知度が高いとは言えなかった若年層のことも意識したPRを行う。
- 地元企業に就職した若者が定着できるようにするため、現在行っている若手職員と管理職員の研修会を引き続き実施し、早期離職の防止対策等を行い、今後も大仙市で「働きたい人・雇いたい企業」のために、それぞれのニーズに応じた支援対策を検討し、制度の充実を図っていく。

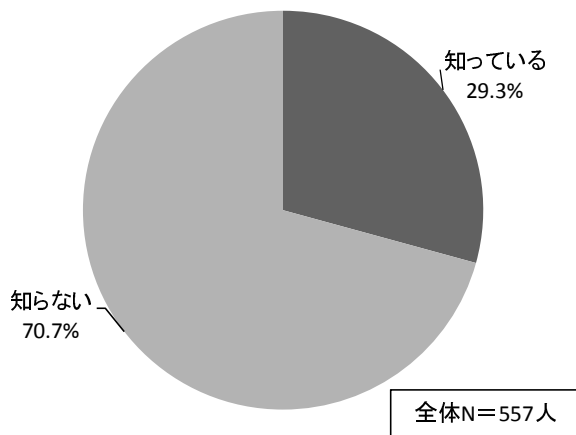
2.2 「農業の担い手支援事業」について

(農林部農業振興課)

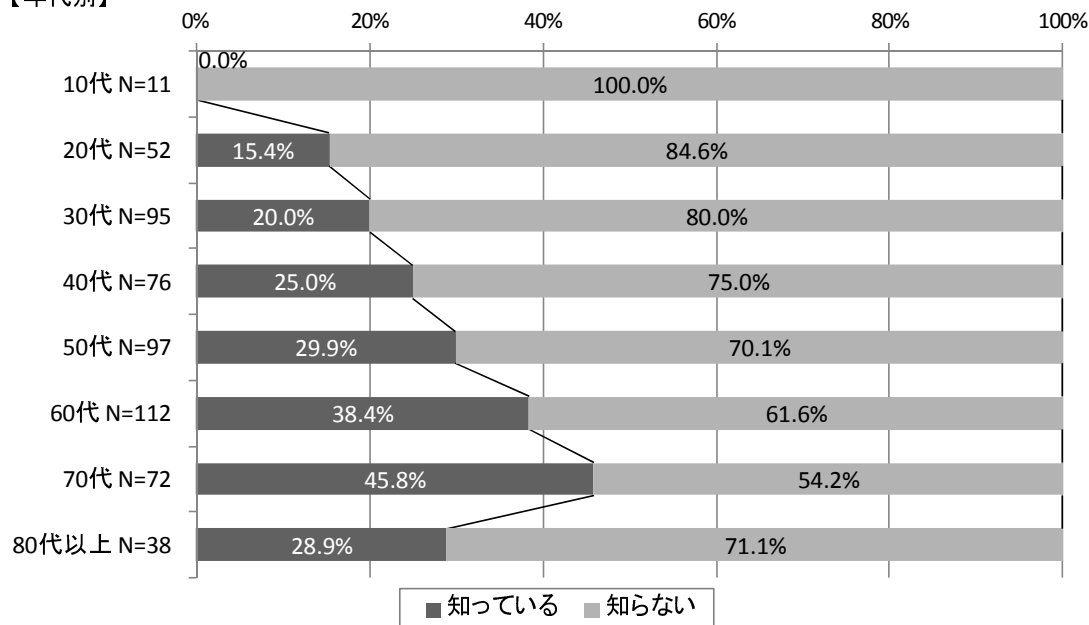
- ◆ 調査目的：本市農業の担い手の確保・育成及び定着を図るため、新規就農者研修施設の取り組むべき方向性について調査する。
- ◆ 調査対象：全体および農業従事者・農業従事希望者（就農関係者）

問1 あなたは、市の新規就農研修施設で通年ならびに冬期の研修を行っていることを知っていましたか。

【全体】

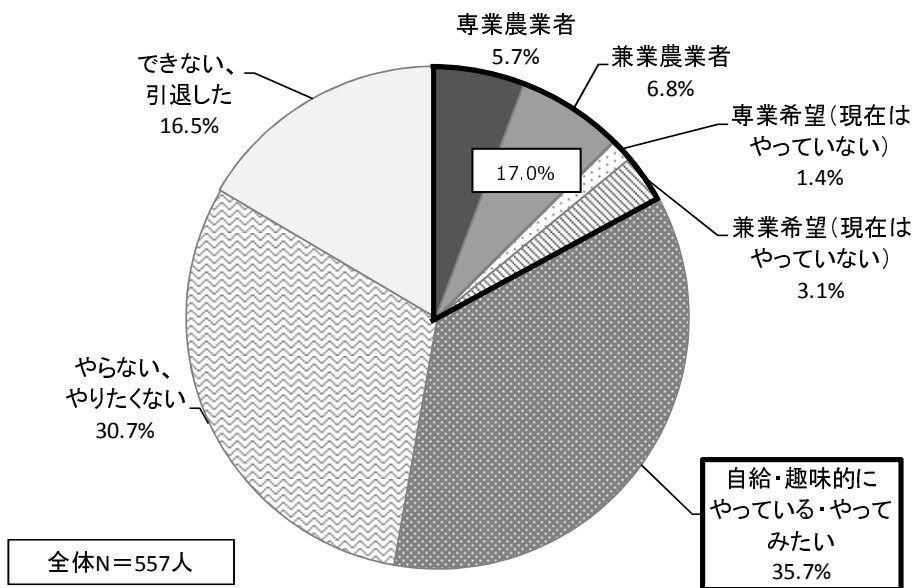


【年代別】



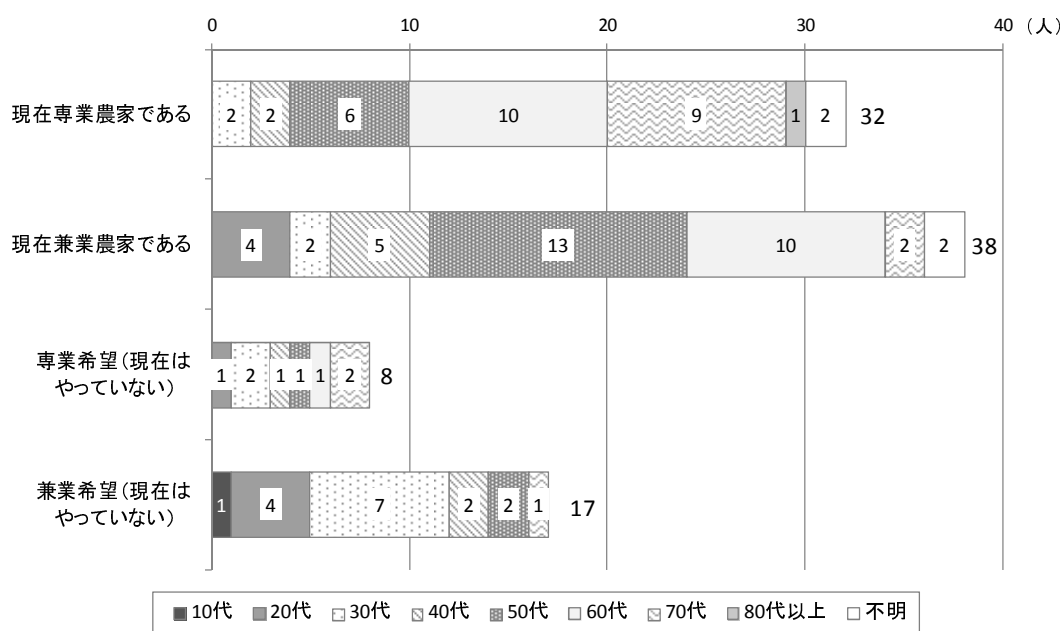
- 全体の 29.3%の方が新規就農研修施設を「知っている」と回答しており、70.7%の方が「知らない」と回答している。
- 10代では「知っている」と答えた方が0%で、70代までは、年代が上がっていくにつれて認知度が上がっている。

問2 あなたは、農業をやってみたいと思いますか。（自分の考えに近いもの1つに○）

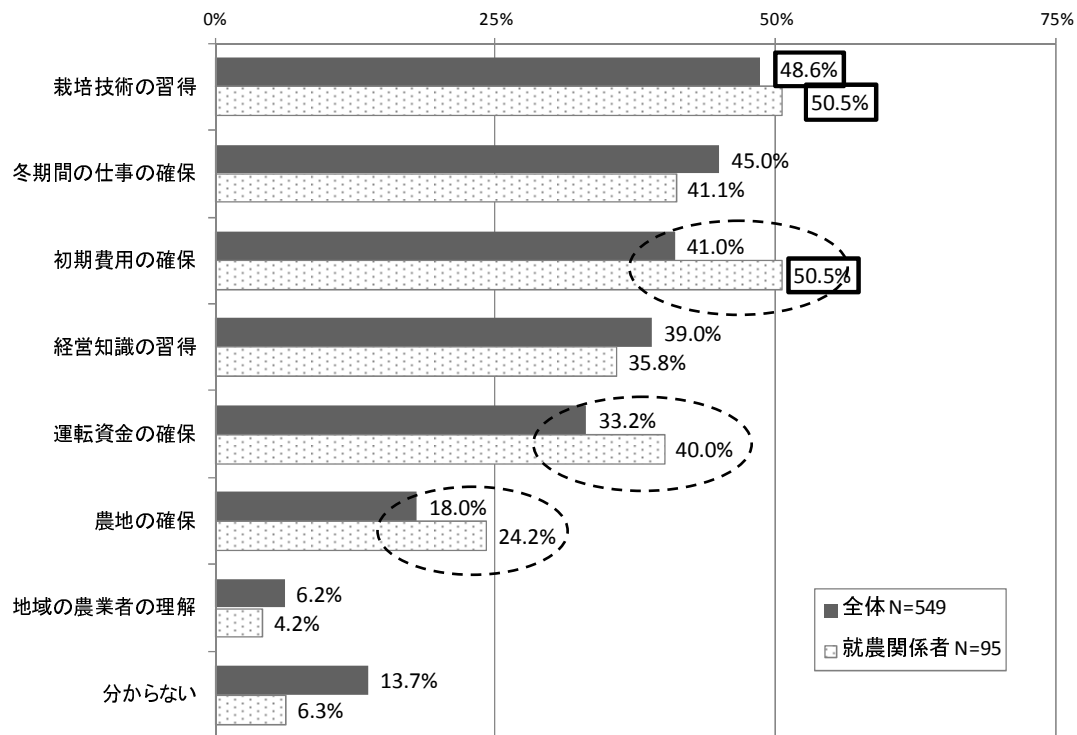


- 「自給・趣味的にやっている、やってみたい」と回答した方が全体の35.7%と最も多く、次いで「やらない、やりたくない」と回答した方が30.7%となっている。
- 「専業農業者」「兼業農業者」「専業で希望しているが現在は他職業」「兼業で希望しているが現在は他職業」を合わせた就農関係者は、全体の17.0%となっている。

【就農関係者構成（参考）】

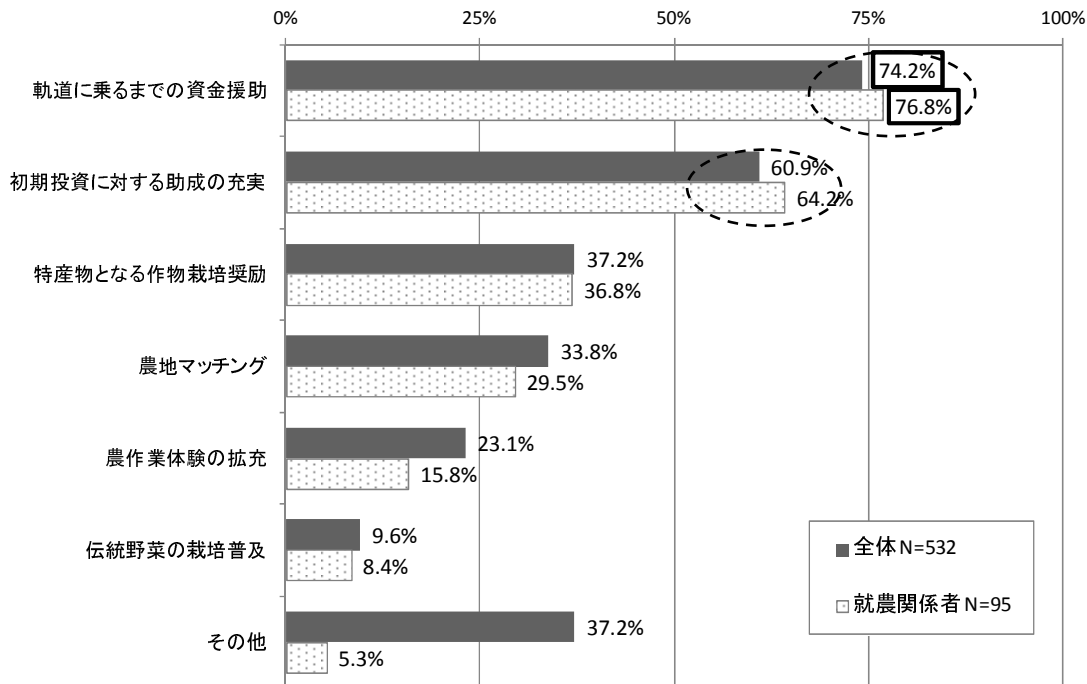


問3 これから農業を始める場合、特に課題と思われることは何だと思えますか。（最大3つまでに○）



- 全体では、「栽培技術の習得」が最も高く、48.6%となっている。
- 就農関係者の回答では、全体と同様「栽培技術の習得」が最も高く 50.5%となっており、それと同ポイントの 50.5%で「初期費用の確保」も最も高い。
- 「初期費用の確保」「運転資金の確保」、「農地の確保」が課題と思っている方の割合は、全体よりも就農関係者が高く 6～9 ポイント上回っている。

問4 今後さらに新規就農者を確保するために取り組むべきことは何だと思えますか（最大3つまでに○）

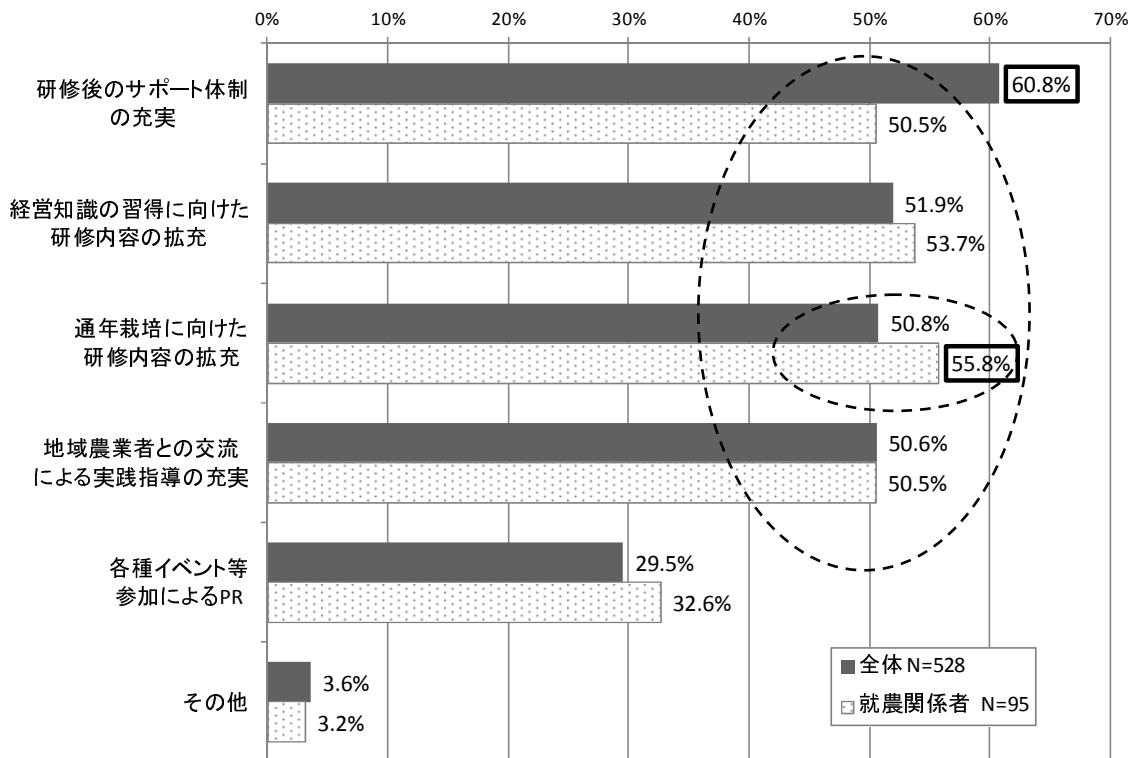


「その他」の意見

- ・新規シニア層向けの農業経営法の指導体制づくり（50代/男性）
- ・JA、他の大規模法人に頼らず生産者自らが直接顧客と向きあえる販路の教示（30代/男性）
- ・市やJAその他機関とも連携した、市主導の「農家」のPR活動（20代/男性）
- ・市としての名産品目の明確化（30代/男性）
- ・売れるしくみ作り（50代/男性）
- ・安定した収入（60代/女性）
- ・農業をするメリットの紹介（30代/男性）
- ・PR活動（40代/男性）
- ・人のいる田園風景（活気ある農村）（60代/男性）
- ・技術支援の継続（30代/男性）
- ・農地の集積（30代/男性）
- ・自然災害時の補償（50代/女性）
- ・輸入拡大、国外への持ち込み（30代/男性）
- ・助成制度など知らない人が多いと思うので、中学校や高校に大仙市の農業を紹介するお便りを配布すると良いと思う（10代/女性）
- ・単価を上げること、農業は儲かるとなれば自然と農家は増えていく（30代/男性）
- ・新規就農者への周囲の理解と精神的・物理的に十分な援助（50代/女性）

- 全体では、「軌道に乗るまでの資金援助」が最も多く74.2%、次いで「初期投資に対する助成の充実」で60.9%となっている。
- 就農関係者では、全体と同じく「軌道に乗るまでの資金援助」が最も多く76.8%、次いで「初期投資に対する助成の充実」が64.2%となっている。
- 取り組むべきことで最も多い「軌道に乗るまでの資金援助」では、全体より就農関係者が2.6ポイント、次に多い「初期投資に対する助成の充実」では、全体より就農関係者が3.3ポイント高く、全体的な認識より、就農関係者の方がより資金援助や助成の充実に必要性を感じていると考えられる。

問5 今後、新規就農者研修施設で力を入れて取り組むべき事は何だと思えますか。（重要だと思うもの最大3つまで○）



「その他」の意見

- ・ 販売知識の習得に向けた研修の充実 (50代/男性)
- ・ 販路のつくり方 (50代/男性)
- ・ 若者に興味を持たれるよう農業をしているタレント等に講義してもらうなど (20代/女性)
- ・ 知識技術のある指導者を置くこと (30代/男性)
- ・ 販売先との交渉力 (60代/男性)
- ・ 紙媒体だけでなく Twitter 等 SNS を使ったアピール (20代/女性)
- ・ 移住者へのサポート、メリットのアピール (20代/女性)
- ・ 栽培技術の研修内容の充実 (40代/男性)
- ・ 女性もたくさん参加させるべき・将来同じ目標者同士でのカップル誕生も視野に入れて (50代/女性)
- ・ 現場での長期研修した方がよい (30代/男性)

- 全体で最も重要と思われていることは「研修後のサポート体制の充実」で 60.8%、就農関係者で最も重要と思われていることは「通年栽培に向けた研修内容の拡充」で 55.8%となっている。
- 「通年栽培に向けた研修内容の拡充」については、全体が 50.8%に対して就農関係者は 55.8%となっており、5ポイント高く、就農関係者が農業の通年栽培の研修を重要視していると考えられる。
- 全体、就農関係者のいずれでも、「研修後のサポート体制の充実」「経営知識の習得に向けた研修内容の拡充」「通年栽培に向けた研修内容の拡充」「地域農業者との交流による実践指導の充実」を重要と思う方が 50%を超えている。

◆ 調査結果のまとめおよび今後の方針

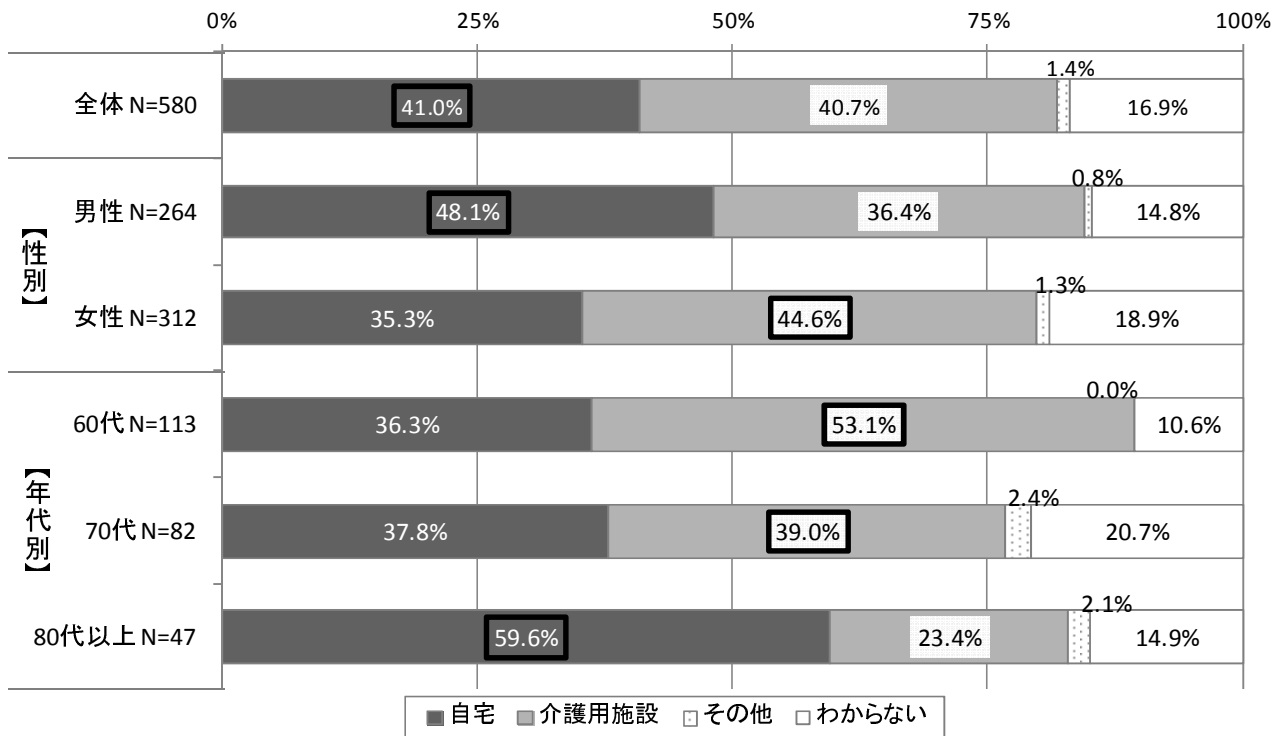
- 問1の調査結果では、新規就農者研修施設を知っている方が3割程度に留まっていることがわかった。今後は、新規就農者研修施設での研修内容や活動報告について、例年行っている秋の稔りフェアでの広報活動に併せて市のホームページ等による積極的な情報発信を行うことに加え、大曲農業高校や市内外の学校との交流を通じて、広く市民の皆さんに施設の取り組みを周知し、潜在的な就農希望者の掘り起こしが図られるよう、施設の認知度向上に努める。
- 問3、問4の調査結果では、農業を始める場合の課題、新規就農者の確保に向けて必要な事項として、全体及び就農関係者ともに資金援助や助成の充実に対する回答割合が高かった。現在でも新規就農に係る国県及び市施策には様々な支援制度があることから、研修生を初め関係者の要望を聞き取りつつ、まずは現行の制度を積極的に活用いただけるよう情報提供に努める。
- 問5の新規就農者研修施設で力を入れて取り組むべきこととして、全体では「研修後のサポート体制の充実」、就農関係者では「周年栽培に向けた研修内容の充実」への回答割合が高いことから、研修終了後のサポート体制強化・充実を図るとともに、県等関係機関や関係団体との連携により指導体制を強化し、周年栽培研修内容の充実に努める。

2.3 高齢者の「生活支援体制整備事業」 （健康福祉部地域包括支援センター）

◆ 調査目的：高齢者が住み慣れた地域で自立した生活を継続していくことができるように、助け合いの地域づくりを進めていくためには、地域に足りない活動の創出や担い手の確保が必要不可欠であり、地域に必要な活動と担い手に関する意欲等について把握するため。

◆ 調査対象：全体（被支援にかかる設問については 60 代以上）

問1 もしあなた自身に介護が必要になったとき、どこで過ごしたいと思いますか。



「その他」の意見

- ・ 自宅施設どちらでも良い (30代/女性)
- ・ 自宅と介護用施設 (80代以上/女性)
- ・ 医療機関 (50代/女性)
- ・ 娘宅 (70代/男性)
- ・ 状況による (70代/男性)

○全体では、「自宅」で過ごしたいとの回答が 41.0%、「施設」が 40.7%でほぼ同じ割合となっている。

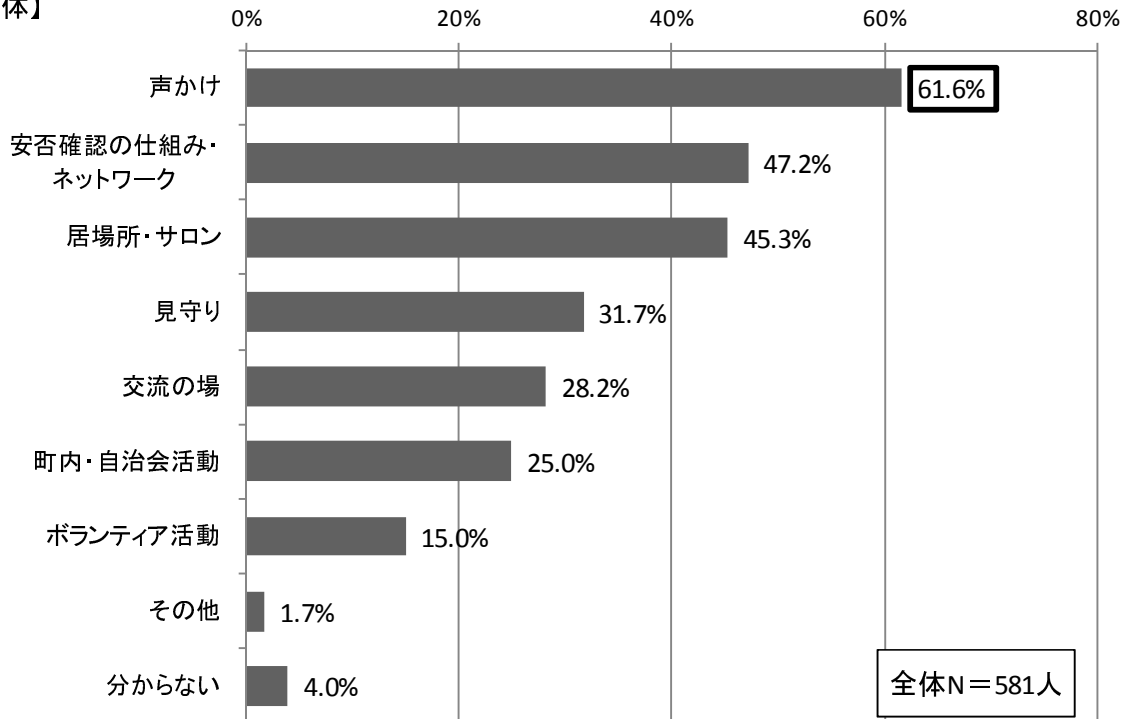
○性別では、男性は「自宅」が多く 48.1%、女性は「施設」が多く 44.6%となっている。

○性別での「自宅」と「施設」のポイント差は 10%程度となっており、男性は「自宅」、女性は「施設」で過ごしたいと思う方が多いという傾向がわかる。

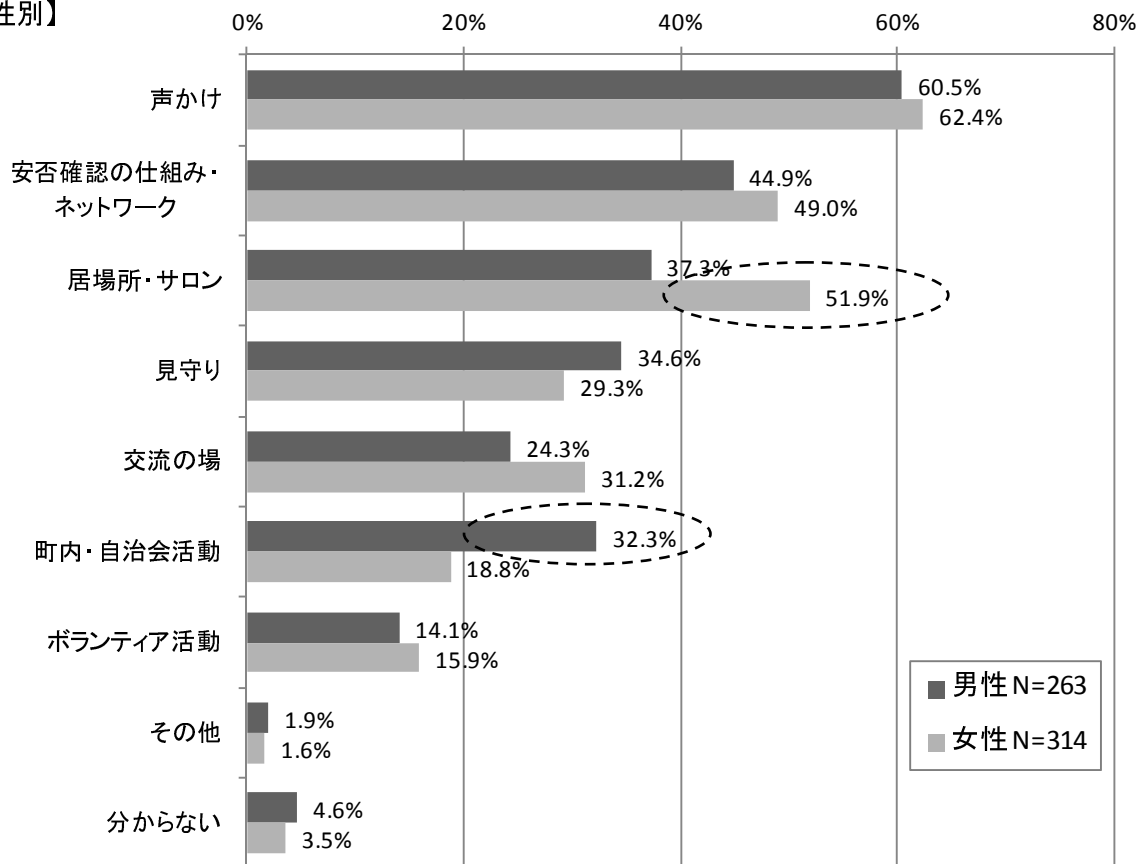
○年代別（60代以上）では、「施設」の割合が 60代で 53.1%、70代で 39.0%と「自宅」と答える方より多いが、80代では「自宅」が 59.6%と多くなっている。

問2 地域で、みんなで支え合うために必要なものはどのようなことだと思いますか。(最大3つまでに○)

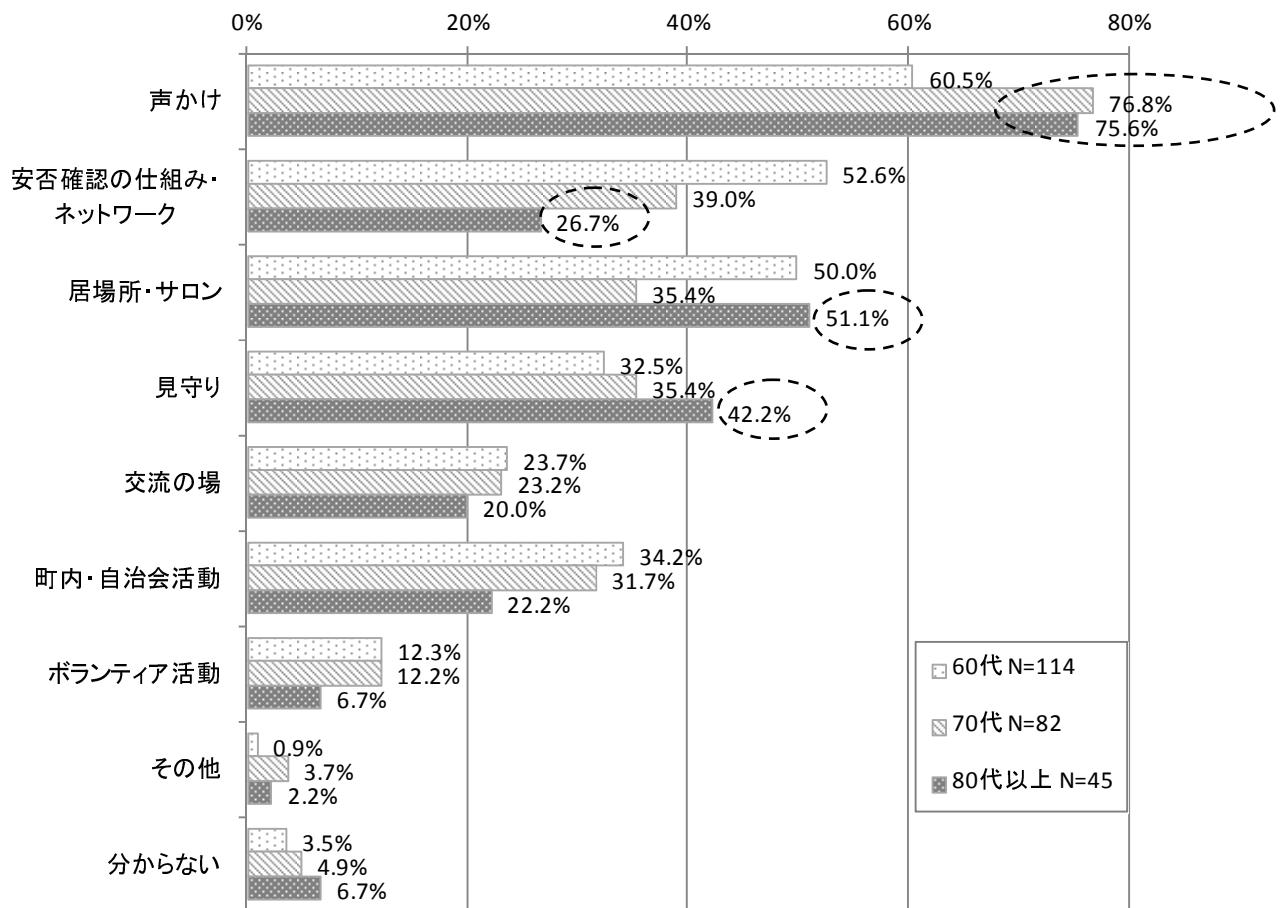
【全体】



【性別】



【年代別（60代以上）】



「その他」の意見

- ・病院（70代/男性）
- ・単独集落で生活が出来る環境（40代/男性）
- ・自宅で暮らせるうちは自宅で過ごせるような資金の援助（40代/女性）
- ・信頼・知識（50代/女性）
- ・各地域の公共施設の有効活用（60代/男性）
- ・同じ町内でも支援が必要な人が分からない。情報があれば気にかけて声を掛けるようになるので教えて欲しい。個人情報とか言わずに共有できるようにして下さい。（30代/男性）

○全体では、「声かけ」と回答した方が61.6%と最も多く、次いで「安否確認の仕組み・ネットワーク」と回答した方が47.2%、続いて「居場所・サロン」が45.3%となっている。

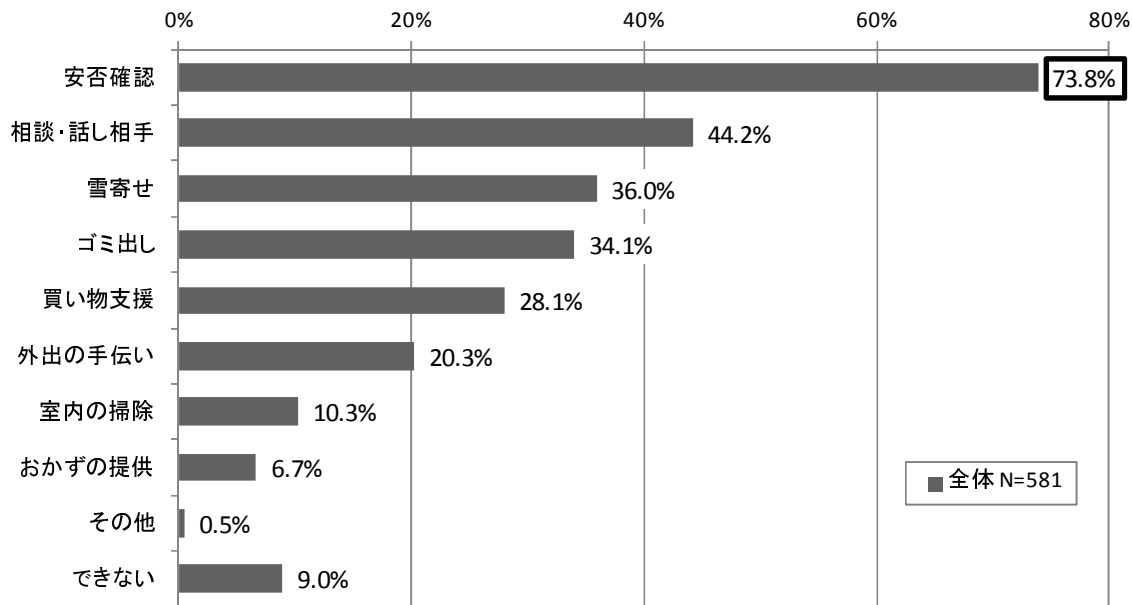
○性別では、「居場所・サロン」が14.6%差で女性の方が多く、「町内・自治会活動」が13.5%差で男性の方が多。性別により、必要と感じている支え合いが大きく異なるものもある。

○年代別（60代以上）では、全体と同様「声かけ」と回答した方が最も多かったが、特に70代、80代以上では75%を超える方が必要と感じており、年齢が高くなると「声かけ」をより必要と感じている。

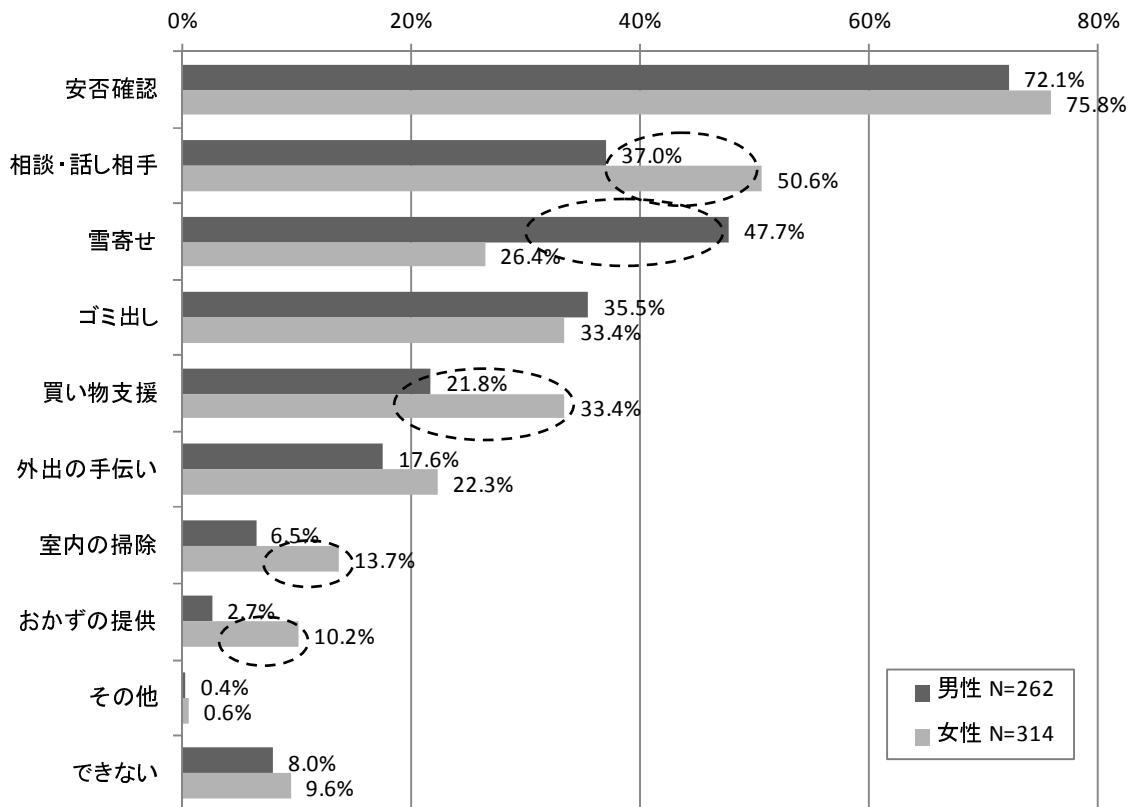
○80代以上においては、「声かけ」の75.6%に次いで「居場所・サロン」が51.1%、続いて「見守り」42.2%、「安否確認の仕組み・ネットワーク」が26.7%となっており、全体の傾向とは異なっている。

問3 近所や地域の人に対して、あなたができることはありますか。(できそうなものすべてに○)

【全体】



【性別】



○全体では、「安否確認」が最も高く 73.8%となっており、7割を超える方が「自分にできそうなこと」として選択している。

○性別では、「相談・話し相手」「買い物支援」「室内の清掃」「おかずの提供」の項目において女性が男性より5ポイント以上の差で多く、「雪寄せ」の項目においては男性が女性より21ポイント差で多くなっており、性別により「自分にできそうなこと」が異なっている。

【年代別】

	有効回答者数 (人)	安否確認	相談・話し相手	雪寄せ	ゴミ出し	買い物支援	外出の手伝い	室内の掃除	おかずの提供	その他	できない	(「できない」以外) のべ回答数	(一人平均) 有効回答者数÷
全体	581	429 73.8%	257 44.2%	209 36.0%	198 34.1%	163 28.1%	118 20.3%	60 10.3%	39 6.7%	3 0.5%	52 9.0%	1476	2.54
10代	11	6 54.5%	5 45.5%	6 54.5%	2 18.2%	1 9.1%	1 9.1%				1 9.1%	21	1.91
20代	52	32 61.5%	29 55.8%	25 48.1%	18 34.6%	14 26.9%	8 15.4%	5 9.6%	2 3.8%		8 15.4%	133	2.56
30代	97	74 76.3%	35 36.1%	43 44.3%	18 18.6%	21 21.6%	17 17.5%	4 4.1%	2 2.1%		10 10.3%	214	2.21
40代	76	62 81.6%	27 35.5%	29 38.2%	26 34.2%	25 32.9%	18 23.7%	6 7.9%	3 3.9%		2 2.6%	196	2.58
50代	98	82 83.7%	41 41.8%	30 30.6%	35 35.7%	30 30.6%	17 17.3%	11 11.2%	10 10.2%		3 3.1%	256	2.61
60代	115	92 80.0%	55 47.8%	44 38.3%	55 47.8%	42 36.5%	32 27.8%	21 18.3%	12 10.4%		5 4.3%	353	3.07
70代	81	53 65.4%	44 54.3%	24 29.6%	30 37.0%	23 28.4%	20 24.7%	10 12.3%	7 8.6%	2 2.5%	11 13.6%	213	2.63
80代以上	46	26 56.5%	20 43.5%	7 15.2%	14 30.4%	6 13.0%	3 6.5%	3 6.5%	3 6.5%	1 2.2%	11 23.9%	83	1.80

- 年代別には、全年代で「安否確認」が最も多く、10代、30代、40代では次に「雪寄せ」が、20代、50代、60代、70代、80代では次に「相談・話し相手」が多い。
- 60代では、「相談・話し相手」と同じ47.8%で、「ゴミ出し」の割合が多い。
- 「できそうなこと」として挙げている項目ののべ回答数を有効回答者数で割ると、全体で一人あたり2.54項目、60代で最も高く一人あたり3.07項目となっている。

◆ 調査結果のまとめおよび今後の方針

- 介護が必要になった場合に過ごしたい場所については、男女間での違いはあるものの、年代別に見ると年齢層が高くなるに連れて自宅で過ごしたいという思いが強い傾向にあり、自宅での生活を継続していくための支援を充実させていかなければならないと思われる。
- 高齢者が自宅での生活を継続していくためにも、助け合いの地域づくりを推進したいと考えているが、今回のアンケートでは「地域で支え合うために必要だと思うもの」として、声かけや安否確認、サロン等の居場所、見守りなどが上位にある。中でも、安否確認は「自分ができるもの」として圧倒的に回答が多く意欲的だと判断できるため、男女別の調査結果も踏まえながら、例えば、話し相手やゴミ出しなどと組み合わせた安否確認を行うなど、地域でできる活動に繋げていけるように、当該事業における各種協議の場で調査結果を提示していきたい。

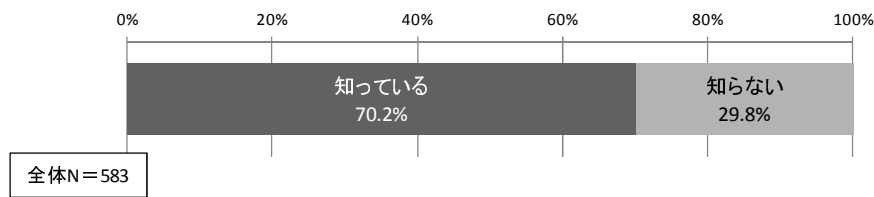
2.4 「地域や生活の実情に即した公共交通の整備」 （企画部まちづくり課）

◆ 調査目的：市では、路線バスの廃止代替や公共交通空白地域の解消を目的に、対策事業の一環として「乗合タクシー」の整備を進めてきた。現在では大仙市全域で乗合タクシーが運行されているが、乗合タクシーが導入されていない地域もあり、個別に改善を求める声もあることから、地域の方々が乗合タクシーをどのように捉えているか調査するものである。

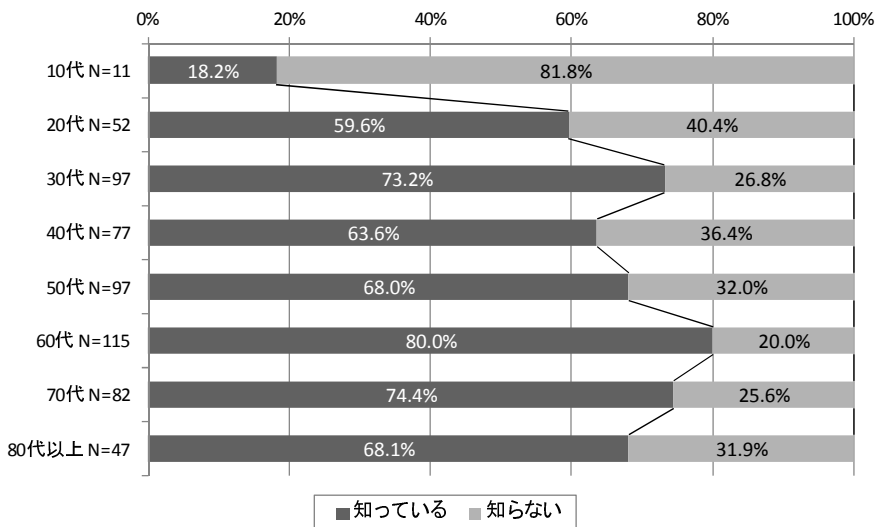
◆ 調査対象：全体

問1 あなたは「乗合タクシー」の制度を知っていますか。

【全体】



【年代別】



○全体の70.2%の方が「乗合タクシー」を「知っている」と回答している。

○年代別では、10代で知っている方が2割を下回っているものの、20代から80代以上では6割から8割の間で年代によりばらつきがある。60代が最も多く80.0%の方が「知っている」と答えており、年代による傾向は見られない。

問2 あなたは「乗合タクシー」を利用していますか。（問1で「知っている」と答えた方の中で）

有効回答者数 （人）	利用している （したことがある）	利用したことが ない	無回答
409	9	397	3
	2.2%	97.1%	0.7%

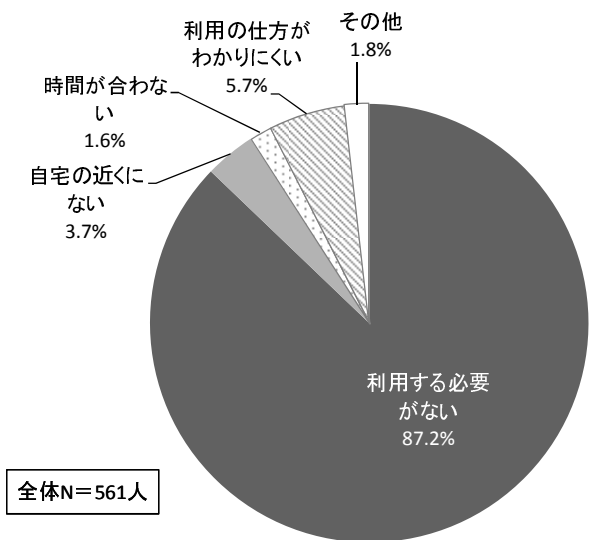
【利用している（したことがある）方】

大曲地域 60代, 70代
西仙北地域 70代
協和地域 20代
中仙地域 20代, 70代
仙北地域 80代
太田地域 50代, 80代

○「利用したことがない」と回答した方が全体の 97.1%と多く、「利用したことがある」と回答した方は 2.2%で9名だった。

○利用している（したことがある）方は、大曲地域、中仙地域、太田地域で2名、西仙北地域、協和地域、仙北地域で1名ずつ、となっており、特定の地域に偏った傾向は見られない。

問3 「乗合タクシー」を利用したことがない理由は何ですか。(最も近いもの1つに○)



【「利用する必要がない」以外の回答者（地域/年代）】

自宅の近くにない	大曲 70代・80代以上(4)、西仙北 70代、中仙 60代、協和 60代・80代以上
時間が合わない	中仙 40代・80代以上、仙北 20代・70代、太田 30代(2)
利用の仕方がわかりにくい	大曲 20代・30代・50代(2)・60代、神岡 60代・80代以上、協和 30代、中仙 30代・60代、仙北 80代以上、太田 60代
その他	大曲 50代・70代・80代以上(2)、中仙 50代・80代以上

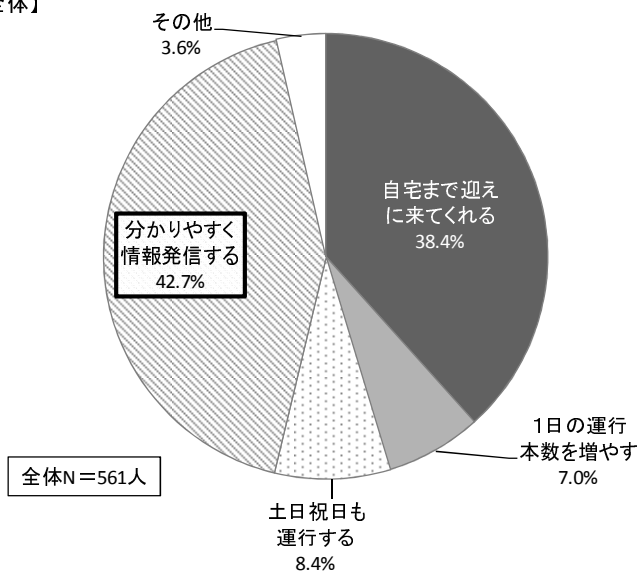
()カッコ内数字は複数人があった場合の数

○全体では、「利用する必要がない」が最も高く、87.2%となっている。

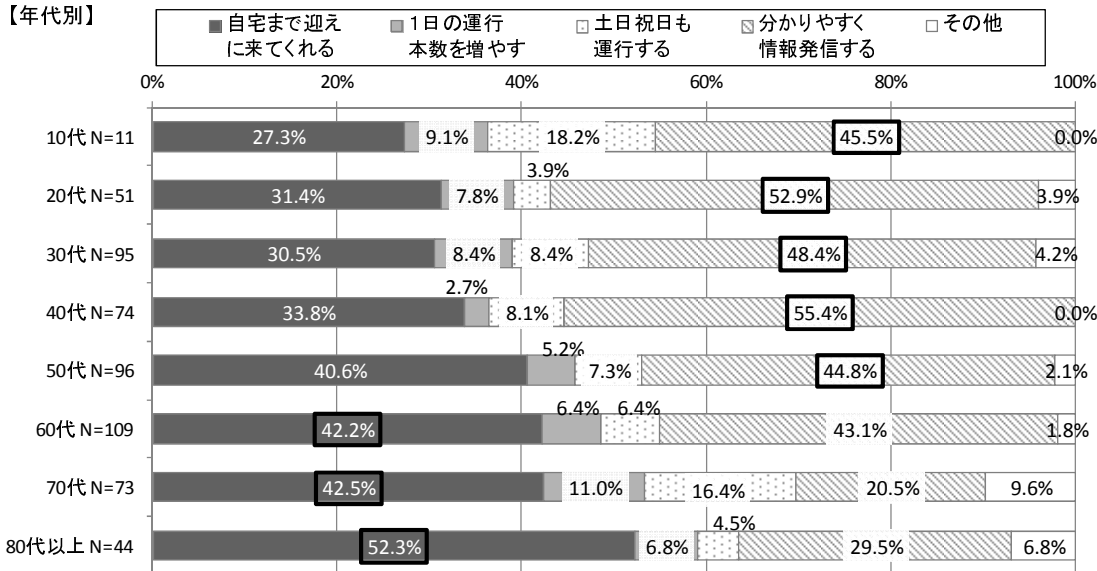
○「利用する必要がない」以外の回答では、「利用の仕方がわかりにくい」が5.7%と次に多い。

問4 多くの方に「乗合タクシー」を利用していただくために最も必要だと思うことは何ですか。(1つに○)

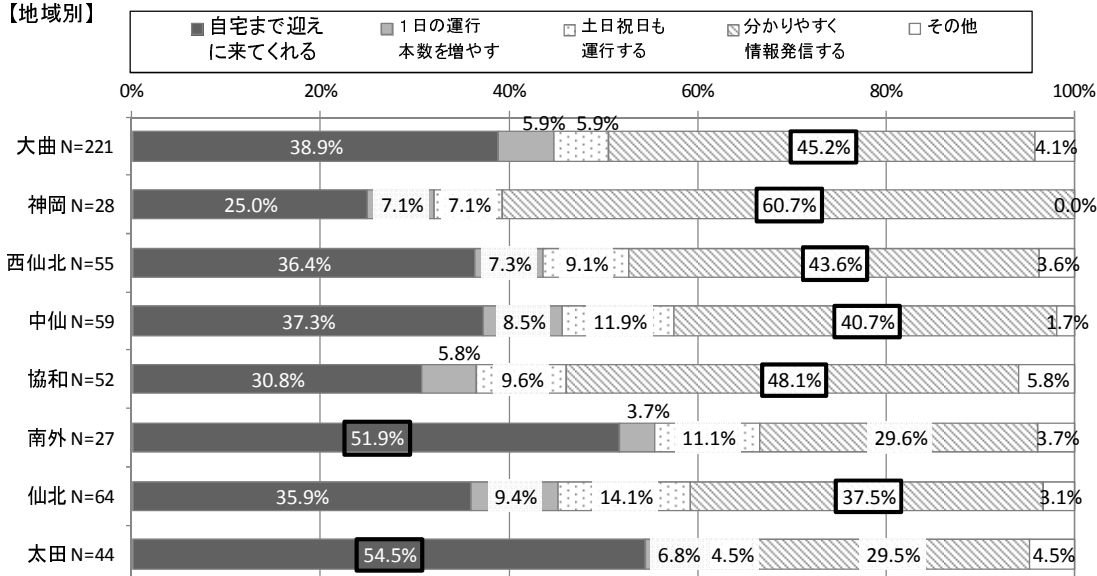
【全体】



【年代別】



【地域別】



「その他」の意見

- ・ 自宅(現在位置)から、どこに行けばいいのか時刻表等が「スグに」知れること。(IT?) (20代/男性/協和地域)
- ・ 運賃を安くする (50代/男性/大曲地域、50代/女性/大曲地域)
- ・ チラシやCMでPRする (20代/女性/仙北地域)
- ・ 誰でも使えるようにする (70代/女性/大曲地域)
- ・ 少しでも自宅近くまで来てくれて、できるなら予約なしでも乗れるようにしてほしい (30代/女性/中仙地域)
- ・ 路線バスの方が良い (70代/男性/仙北地域)
- ・ 運行時間の検討 (70代/男性/大曲地域)
- ・ 路線をふやす (70代/女性/西仙北地域)
- ・ 大曲方面に行きたいけれど行ってくれない (80代/女性/太田地域)
- ・ 降車場所(地域)をイオンやイーストモールまで広げた方がよい (30代/男性/大曲地域)
- ・ 乗降所を増やす (30代/男性/南外地域)

○全体では、「分かりやすく情報発信する」が最も多く 42.7%、次いで「自宅まで迎えに来てくれる」で 38.4%となっている。

○年代別では、50代までは「分かりやすく情報発信する」が最も多くなっているものの、60代、70代、80代以上では「自宅まで迎えに来てくれる」が最も多くなっており、年代が高くなると、利用するためには「自宅まで迎えに来てくれる」ことが必要であると感じている。

○地域別では、大曲、神岡、西仙北、中仙、協和、仙北地域で「分かりやすく情報発信する」が最も多く、南外、太田地域で「自宅まで迎えに来てくれる」ことが最も多くなっている。

◆ 調査結果のまとめおよび今後の方針

今回のアンケートから、乗合タクシーの制度を知っていると回答した方は7割を超えており、制度については概ね認知されていると考えられるが、利用の有無について尋ねると、利用したことがある方は全体の1.5%しかおらず、利用している割合は非常に少ない。利用しない理由としては、「利用する必要がない」と回答した方が87.2%と最も多く、自家用車が日常生活における主な移動手段となっていること(マイカーへの依存)が背景にあると考えられる。

人口減少や高齢化が進んでいく中で、バス路線の廃止や、高齢によって運転が出来なくなっていくことを想定すると、今後、自家用車に代わる移動手段の必要性の高まりが予想される。

乗合タクシーは、交通の空白地域の解消や交通弱者の救済を目的に、地域における病院や商業施設などの生活拠点と各集落を結ぶ交通として導入されたものであり、今後の自家用車の代替交通の手段として活用すべき制度と考え、より多くの方から利用していただけるよう、運用の改善をしながら新しい利用者の掘り起こしを行っていきたい。

具体的には、分かりやすい情報発信を求める回答が最も多かったことを考慮し、乗合タクシーの利用方法をより見やすく記載した手引きの作成や、ホームページ、広報誌をはじめとした情報提供の方法についても検証を行うこと、また、コミュニティバスや乗合タクシーなどの交通の結び目となる地域拠点での提供設備の改善や整備などを検討する。他にも、自宅まで迎えに来てくれることが有効だという回答も多かったが、自宅と目的地を直接結ぶドアツードア方式などは、大変利便性の高いものであると同時に、既存のバス事業やタクシー事業との競合も懸念されることから、地域の実情に合わせながら、導入の可能性を検討していく。

2.5 「高齢者等雪対策総合支援事業」

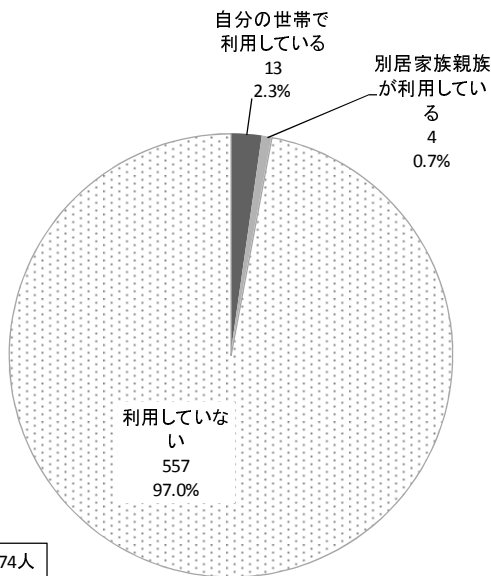
(総務部雪対策推進室)

◆ 調査目的：既に本事業を利用している方、利用していない方から広く意見を集め、今後に事業内容を見直す場合の参考とする。

◆ 調査対象：全体および60代以上の方（事業内容の設問については事業利用関係者）

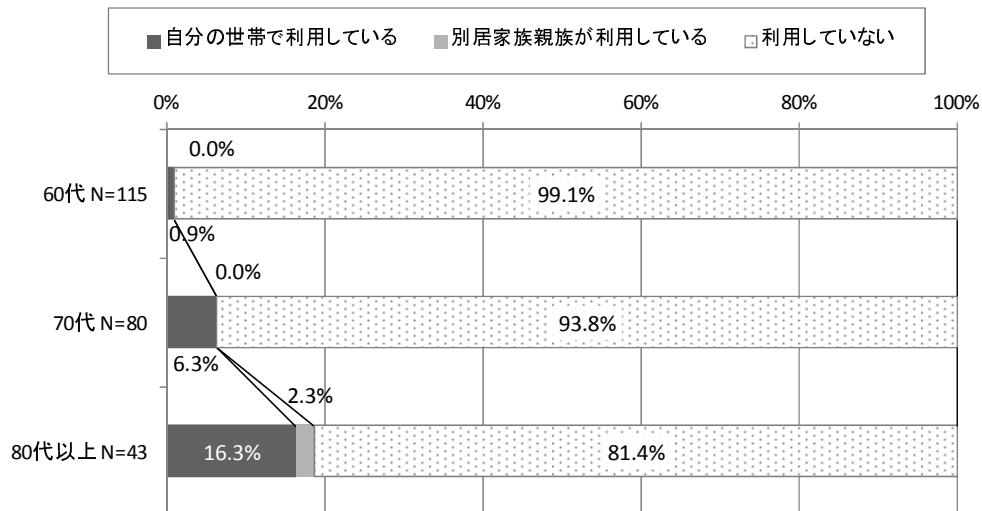
問1 高齢者等雪対策総合支援事業を利用していますか。

【全体】



全体N=574人

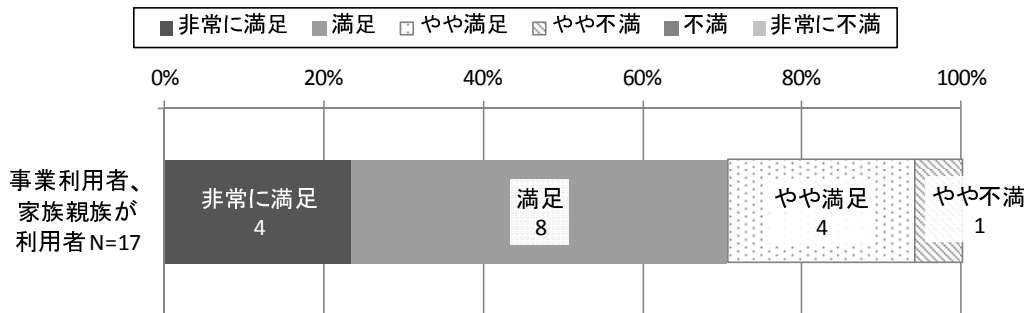
【年代別(60代以上)】



○全体では、「利用していない」が97.0%、「自分の世帯で利用している」が2.3%（13人）、「別居の家族親族が利用している」が0.7%（4人）となっている。

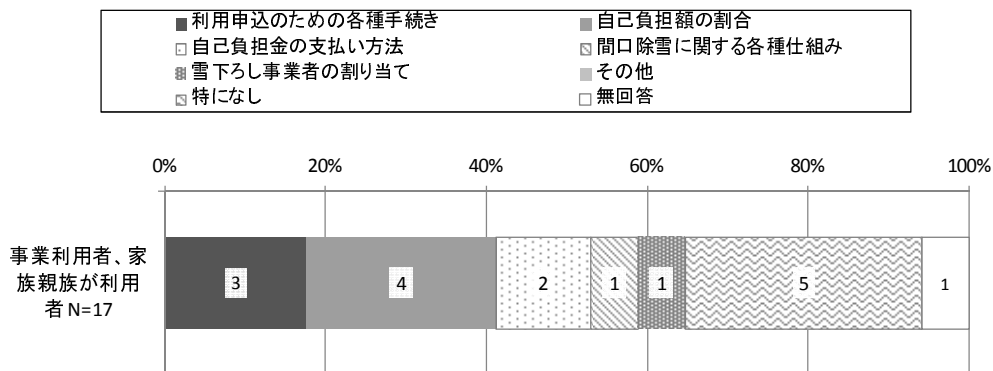
○年代別（60代以上）では、年代が上がるにつれて「自分の世帯で利用している」の割合が増えている。

問2 事業の内容について満足していますか。(問1で「利用している」「別居の家族親族が利用している」利用者)



○「非常に満足」「満足」「やや満足」とする方が、利用者17人中16人となっており、「不満」「非常に不満」を選択した方は0人であった。

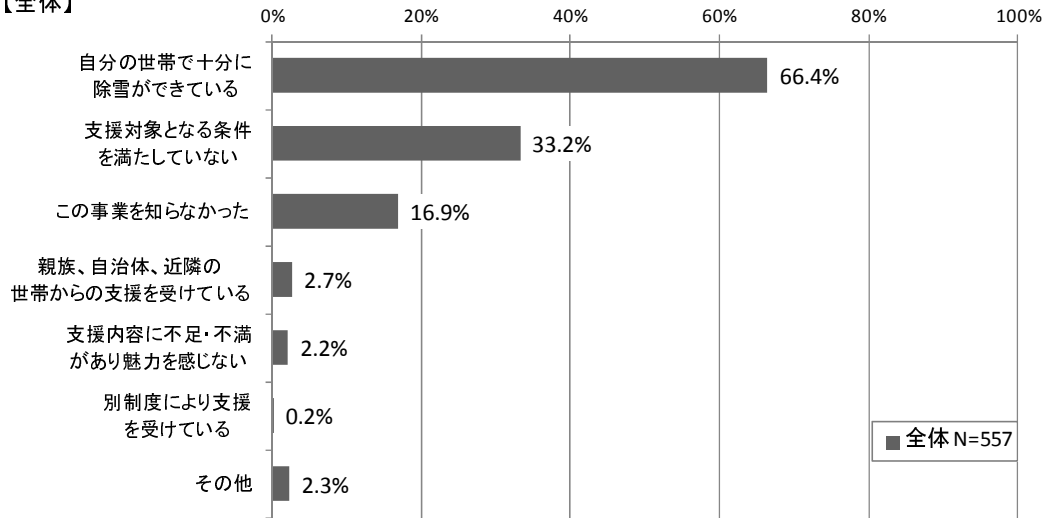
問3 事業内容で改善してほしい点はどこですか。(最も必要なもの1つに○)(問1で「利用している」「別居の家族親族が利用している」利用者)



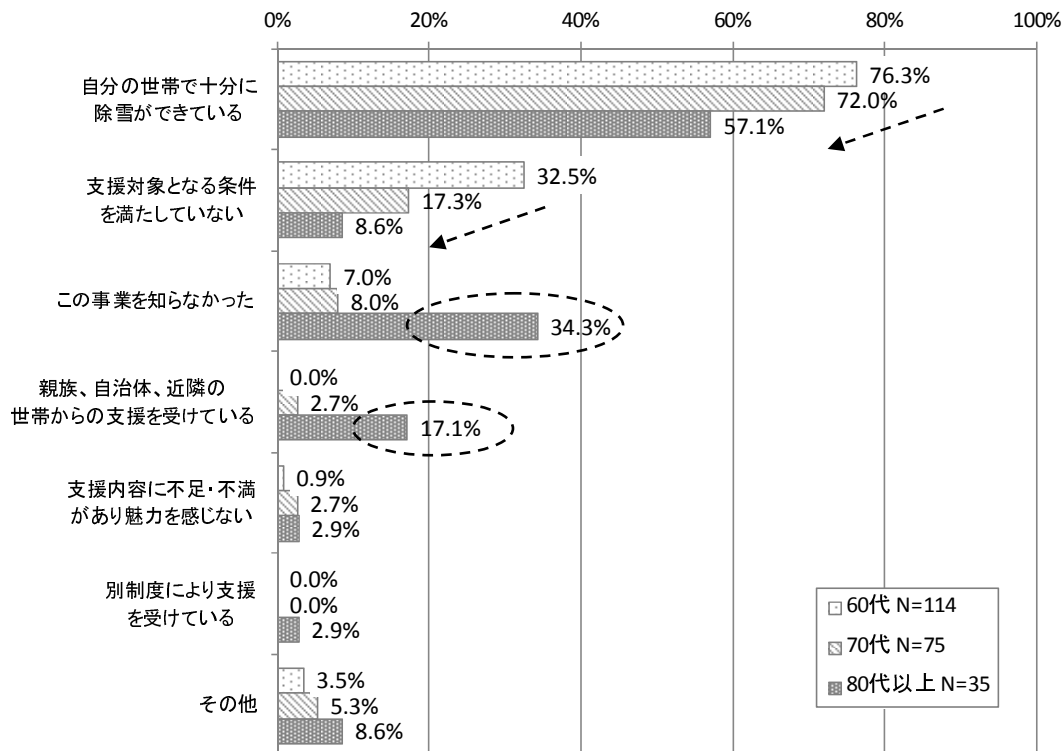
○利用者うち、改善して欲しい点として「特になし」とした方が5人、次いで「自己負担の割合」が4人、「利用申込のための各種手続き」とした方が3人となっている。

問4 「高齢者等雪対策総合支援事業」を利用していない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）（問1で「利用していない」方）

【全体】



【年代別(60代以上)】



「その他」の意見

- ・大仙市シルバー人材センターを利用している（80代以上/男性）
- ・支援を受ける範囲が少ない（70代/男性）
- ・雪下ろしは業者に頼んでいる（60代/女性）
- ・集合住宅で消雪があるため（10代/女性、70代/男性）
- ・近隣の家で雪下ろしに来た人に頼んでいる（80代以上/女性）
- ・今後利用する予定（70代/女性）
- ・雪下ろしを頼んでも待たされる、料金の一部助成ではとても足りないと思う（50代/女性）

- 全体では、「自分の世帯で十分に除雪ができています」が最も多く 66.4%、次いで「支援対象となる条件を満たしていない」が 33.2%となっている。
- 年代別、特に 60 代以上で見ると、「自分の世帯で十分に除雪ができています」、「支援対象となる条件を満たしていない」は年代が上がるにつれて割合が下がっている。一方、80 代以上になると、「この事業を知らなかった」が 34.3%、「親族、自治体、近隣世帯からの支援を受けている」が 17.1%で、60 代、70 代のそれぞれの割合と比較すると突出して多くなっている。

◆ 調査結果のまとめおよび今後の方針

- 今回のアンケートでは、本事業の利用関係者 17 名のうち 16 名が「非常に満足」「満足」「やや満足」としており、本事業の内容については概ね満足いただけていると考えられるが、より良い事業となるよう改善要望を参考に見直すべき点がないか検討を重ねていく。
- 本事業は 70 歳以上を対象としており利用者が限定されていることから、本調査では事業内容に沿う形で全体での利用者の割合が非常に少ないという結果が出ているが、利用していない理由として、高齢になるほど本事業を知らない方が多くなっていることに加え、「親族、自治体、近隣世帯からの支援を受けている」という割合も多くなっている。また、その他の意見においても、シルバー人材センター、業者への依頼など、本事業を知らずに他からの支援を受けたり、依頼したりしていることも考えられ、本事業の対象となる可能性が高いことから、事業内容を知らない割合の多い 80 代を中心に様々な伝達方法や伝達機会を検討したい。また、高齢者にとって複雑な内容は伝わりにくいこともあるため、親世帯等のために代理申請する必要がある若い世代の方々にも周知を進めるようにしたい。

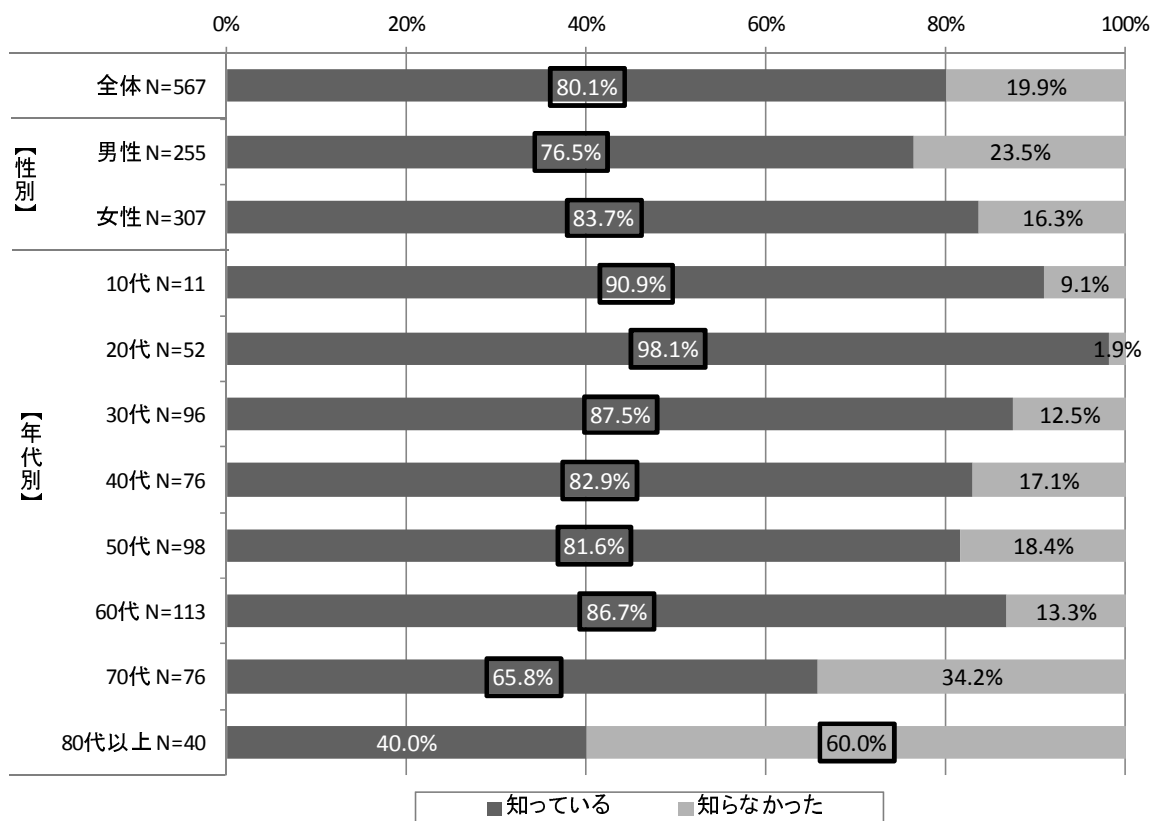
2.6 「グローバルジュニア育成事業（外国語指導助手等招致事業）」

（教育委員会教育指導部教育指導課）

◆ 調査目的：社会の国際化に伴い、英語の重要度や必要性の意識を調査することで、英語教育をより充実したものにする事業の方向性を探ることを目的とする。

◆ 調査対象：全体

問1 市内小中学校の授業の一部を、学級担任や教科担任と一緒に外国人の外国語指導助手（ALT）が指導していることを知っていましたか。



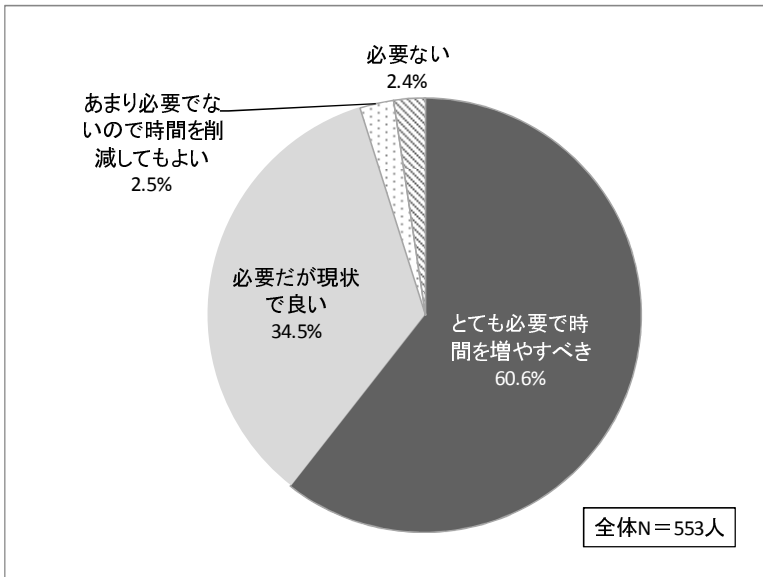
○全体では、「知っている」と回答した方が 80.1%となっており、「知らなかった」と回答した方は 19.9%となっている。

○男女別では、「知っている」と回答した方が女性で 83.7%、男性は 76.5%となっており、女性の方が知っている割合が高い。

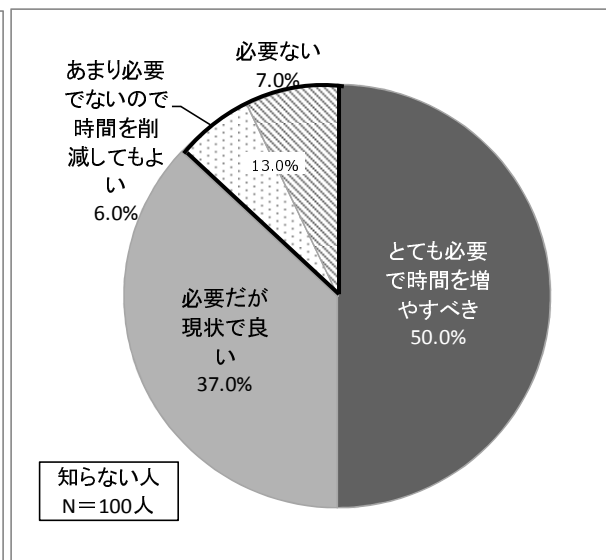
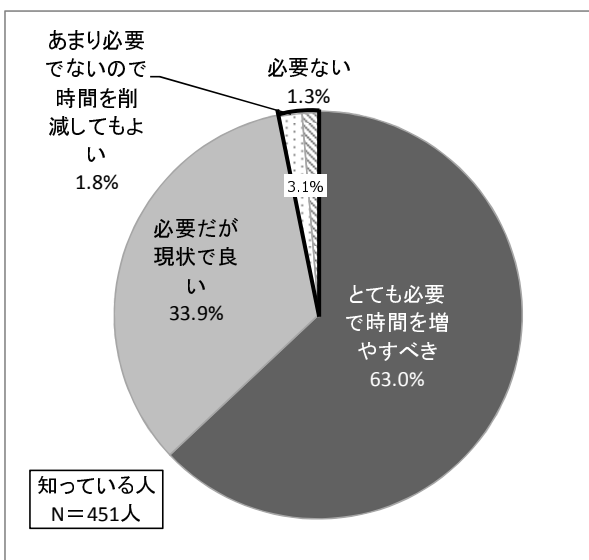
○年代別では、60代までは「知っている」と回答した方が8割以上で認知度が高いが、70代以上ではその割合が減少し、80代以上では「知らなかった」と答えた方が60.0%と、事業を知らない方が多くなっている。

問2 この外国語指導助手（ALT）の指導について、必要だと思いますか。（自分の考えに近いもの1つに○）

【全体】



【(問1での) 認知度別】



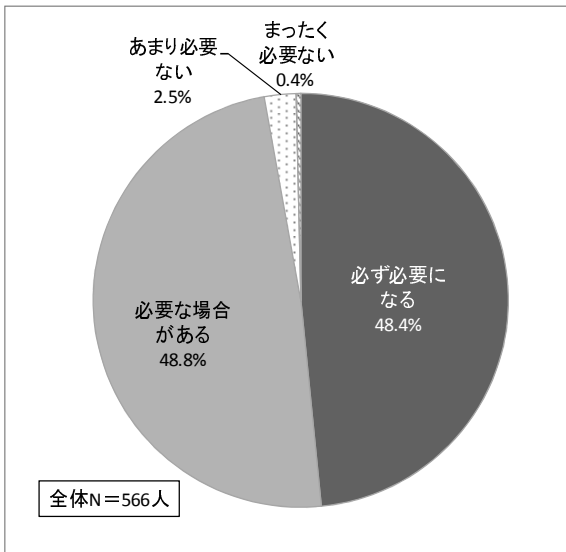
○全体では、「とても必要なことであり、ALTの人数や一緒に授業する時間を増やすべき」と回答している方が60.6%と最も多く、次いで「必要だが現状で良い」が34.5%となっている。

○問1で、本事業を「知っている」と回答した方、「知らなかった」と答えた方とを比較すると、「とても必要で時間を増やすべき」と考える割合は、「知っている」と回答した方の方が13ポイント多く63.0%となっている。

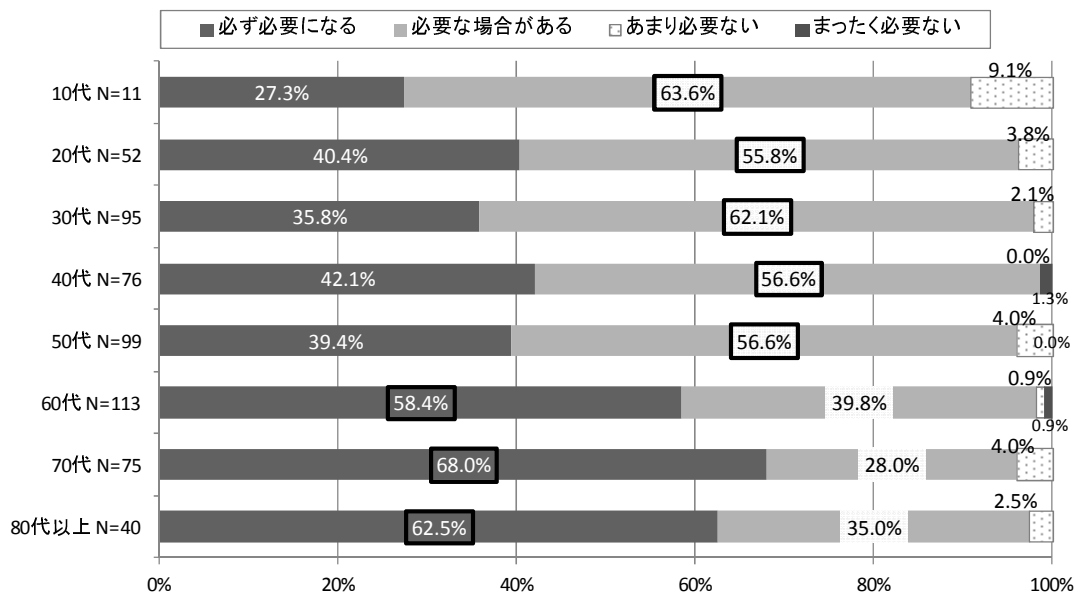
○問1で本事業を「知っている」と回答した方では、「あまり必要だと思わないので、ALTの人数や一緒に授業する時間は減らして良い」「必要ない」と考える方は合わせて3.1%、本事業を「知らなかった」と回答した方では13.0%となっている。

問3 あなたは、子どもたちが将来社会に出て生活して行くには、英語はどの程度必要だと思いますか。

【全体】



【年代】



○全体では、「必要な場合がある」が最も高く 48.8%、次いで「必ず必要になる」が 48.4%となっている。

○年代別では、10代から50代までは「必要な場合がある」と回答した方が最も多く、60代以上で「必ず必要になる」と回答した方が最も多い。

◆ 調査結果のまとめおよび今後の方針

子どもたちにとって、将来的に英語が「必ず必要になる」「必要な場合がある」と考えている方は合わせて97.2%にも上っており、社会的にも、グローバルな人材の育成が強く求められていると考えられる。また、外国語指導助手（ALT）の事業は8割を超える方に認知されており、本事業を知っている方においては、知らない方に比べ、この事業の必要性をより感じているという結果が出た。

平成32年度からの小学校学習指導要領の完全実施による外国語の教科化に対応するためにも、現在実施している以下の事業を継続し、グローバル人材育成の強化を図っていく。

・外国語指導助手招致事業

国際化の進展に伴って重要視される国際理解教育及び外国語教育の充実のために、外国語指導助手（ALT）8名、国際交流員（CIR）1名を配置して、児童生徒の国際感覚やコミュニケーション能力の向上を図っているが、ALTを増員し、ネイティブスピーカーとの関わりをさらに増やすなど、外国語教育のさらなる充実を図っていく。

・英語教育アドバイザー配置事業

退職教員等1名を英語教育アドバイザーとして配置し、小学校英語教育の指導体制を強化するとともに、児童生徒の体験活動の充実や教員の指導力向上のための体制整備の強化を図っていく。

・グローバルジュニアマイスター育成事業

グローバルな視野で主体的に学びを深める資質、能力を育成するため、児童生徒が海外や県外の方々と英語を使ったコミュニケーション、情報交換、観光案内など、目的をもった交流活動を実施した場合に、内容に応じてポイントを付与し、グローバルジュニアマイスターに認定する事業の継続を図っていく。

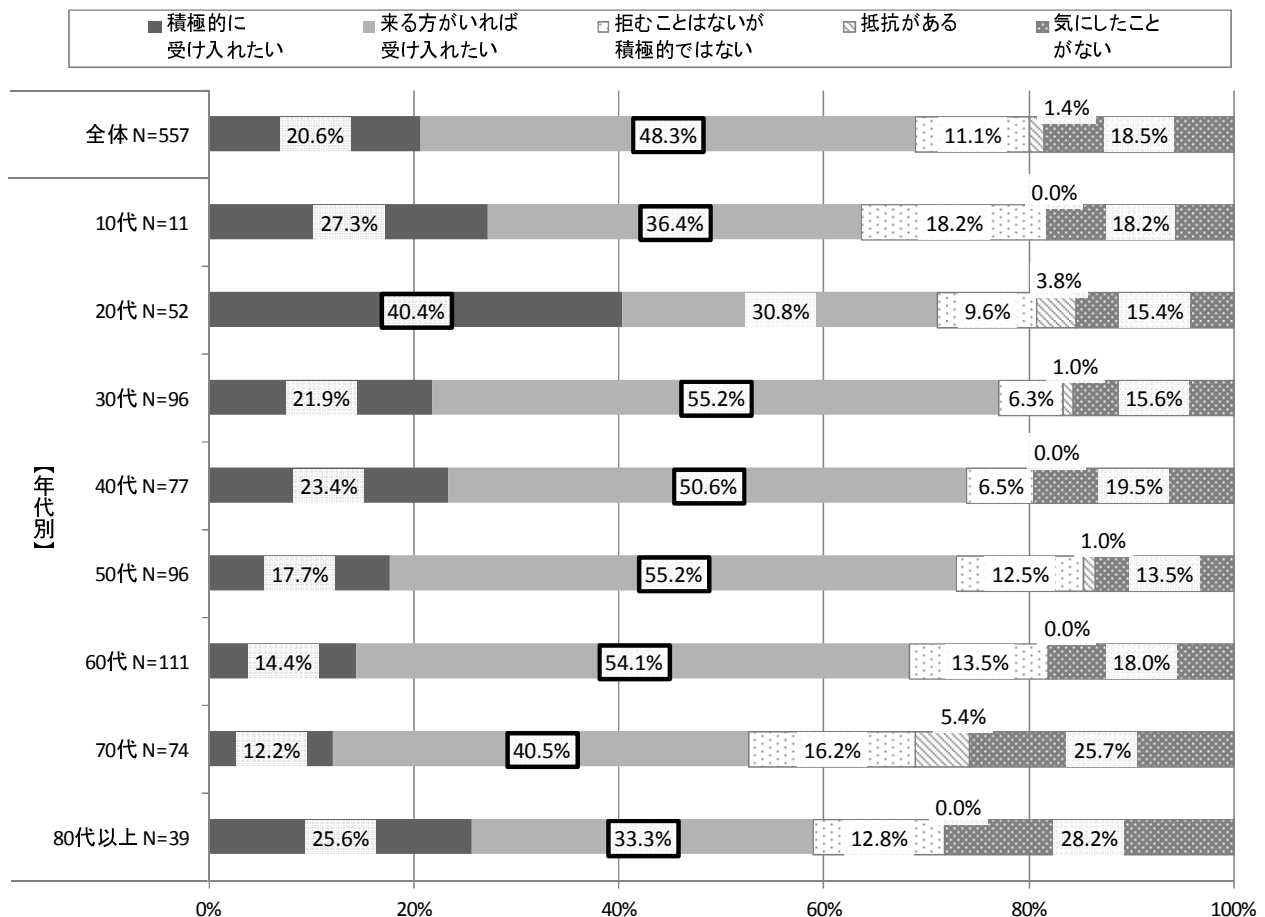
2.7 「移住・定住への支援」について

(企画部まちづくり課)

◆ 調査目的：実際に移住者を受け入れる側である地域の方々は、「地域に移住した方についてどう感じているのか」や「移住後のサポートの必要性についてどう考えているのか」を調査するものである。

◆ 調査対象：全体

問1 あなたは、移住者（地元出身者のUターン移住を含む）の方を受け入れていきたいと考えていますか。（最も考えの近いもの1つに○）

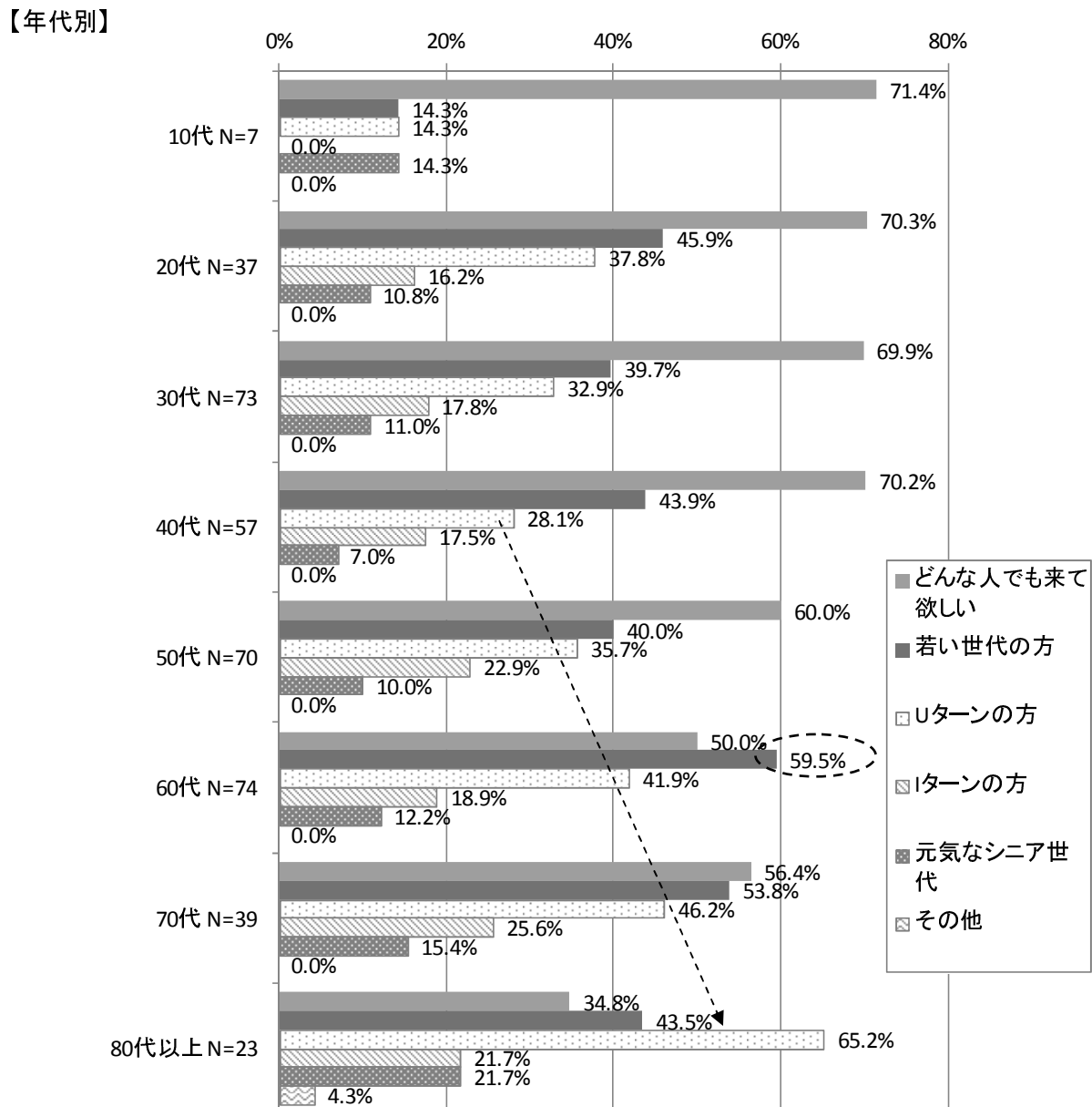
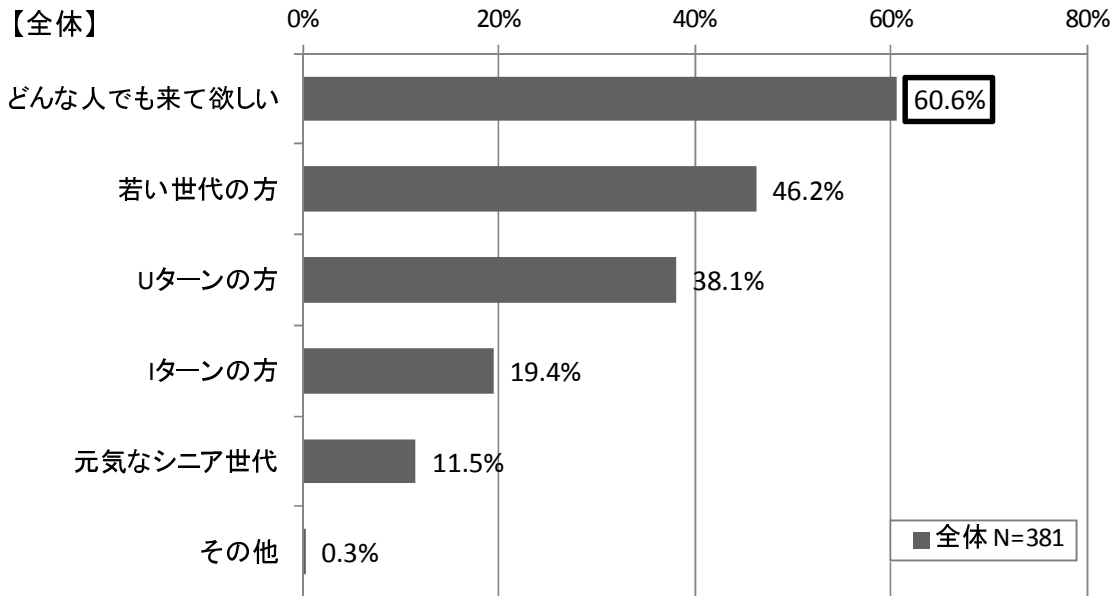


○全体では、「移住して来る方がいけば受け入れたい」が最も多く 48.3%、次いで「積極的に受け入れたい」が 20.6%となっており、全体の 7 割の方が移住者受け入れに前向きである。「抵抗がある」と回答した方は 1.4%となっており、全体的に移住者に対する抵抗感は低い。

○年代別では、20代で「積極的に受け入れたい」が 40.4%と最も多く、それ以外の年代では「移住して来る方がいけば受け入れたい」が最も多い。

○年代が上がると、「気にしたことがない」と回答する方が増え、80代以上では約 3 割の方が「気にしたことがない」と回答している。

問2 どのような移住者の方に来て欲しいですか（あてはまるものすべてに○）



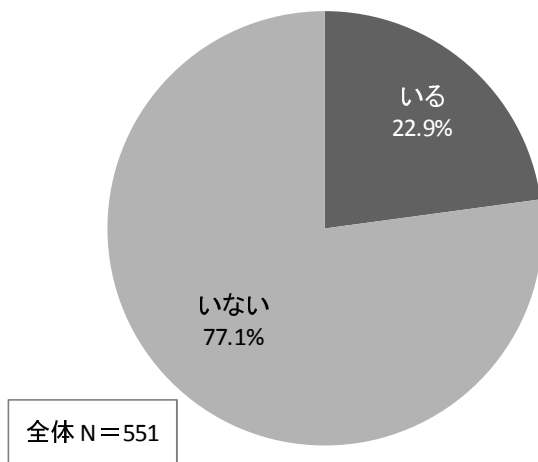
○全体では、「年齢・出身地に関係なくどんな人でも来て欲しい」と回答した方が 60.6%と最も多く、次いで「若い世代の方」と回答した方が 46.2%となっている。

○年代別では、10代から40代までの年代で約7割の方が「年齢・出身地に関係なくどんな人でも来て欲しい」と回答している。

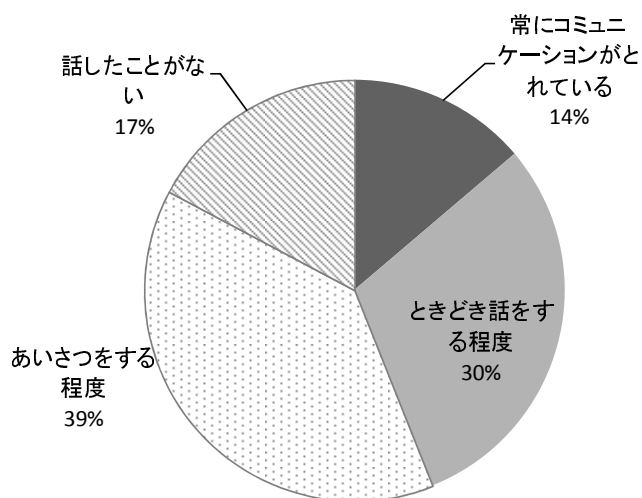
○60代では「若い世代の方」が 59.5%で、「年齢・出身地に関係なくどんな人でも来て欲しい」を 9.5ポイント上回っている。

○40代からは年代が高くなるにつれて、「Uターンの方」と回答した方が増える傾向が見られる。

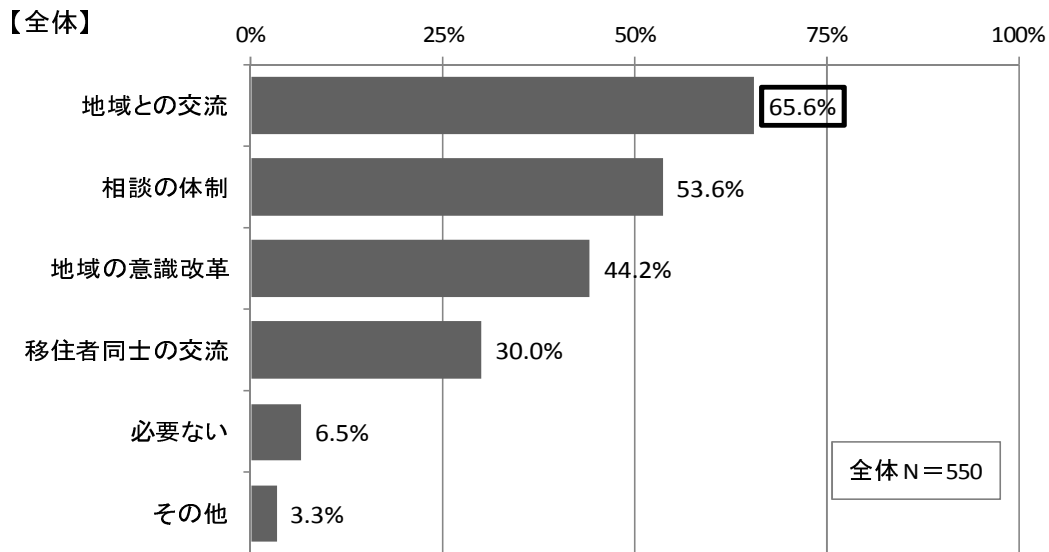
問3 あなたの地域に大仙市外から移住してきた方はいらっしゃいますか。



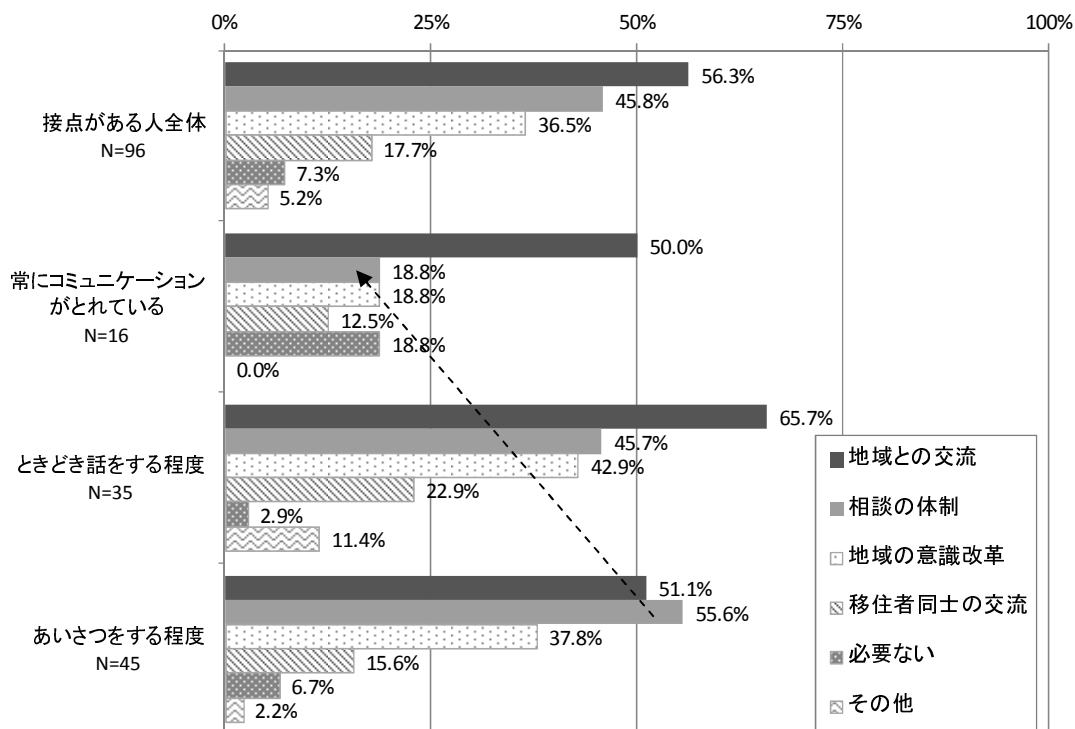
問4 移住者の方とあなたはどの程度の間柄ですか。(問3で「いる」と回答した方)



問5 移住者の方が大仙市で問題なく暮らしていくためには、どのようなサポートがあればよいと思いますか。



【(問4での)移住者との関係別】



○全体では、「地域との交流」が最も高く 65.6%となっており、次いで「相談の体制」が 53.6%となっている。

○移住者との関係別では、「常にコミュニケーションがとれている」方では「地域との交流」が 50.0%で最も高く、それ以外の回答は 20%以下と低く、「必要ない」と回答した方も 18.8%となっている。

○全体では 53.6%と二番目に多かった「相談の体制」は、移住者との関係別で見ると関係が深くなるにつれて必要と思う割合が減っており、常にコミュニケーションがとれている方がいれば「相談の体制」の必要性が低くなってくると考えられる。

◆ 調査結果のまとめおよび今後の方針

- 今回のアンケートでは、「自分の地域に移住者の方はいない」と回答した方が約8割となっている。また、「地域に移住者がいる」と回答した方の中でも「常にコミュニケーションがとれている」とした方は14%となっており、実際に日々の生活の中で移住者と接点を持ち、良好な関係を築いている回答者は、全体の1割にも満たないことがわかる。
- 問1の結果からは、移住者に対する全体的な抵抗感は非常に低いことが伺えるが、実際には移住者との接点は少なく、地域で価値観の違う移住者と一緒に暮らした経験が乏しいことや移住者の抱える生活上の不安や悩みを理解する機会が限られていることなどから、必ずしも移住者を受け入れる体制が整っているとは言えない状況にあると言える。
- 今回の調査結果を踏まえ、来年度は、移住者の受け入れに前向きな地域住民を対象に、移住者の抱える不安や悩みなどを理解していただき、実際に地域で移住者を受け入れていくための心構えや接し方などを学ぶ研修会を開催すると共に、市内の移住者の受け入れに前向きな地区をモデル化し、地域住民による移住者受入支援組織設立のサポートやお試し移住体験などが行える環境の整備等を検討していく。

3. 自由記述（分野別）

産業分野

- 企業誘致をして若者を雇用して町を活性化してほしい（80代以上／男性／大曲／無職）
- 若者の雇用は正社員として優遇されているのに対し、30、40、50代と働き盛りの方はパートやアルバイトと時給扱いなのには不満である。子育てや介護等負担もあり、支出も多いのに、思うように働けないという理由で企業側より正社員にしてもらえない。（40代／女性／仙北／パート・アルバイト）
- 大仙市を住みやすい町にしたい、誰でも思っている。課題が山積みです。雇用、就労に取り組んでもらいたい。私は高齢ですが働きたい。（60代／女性／大曲／パート・アルバイト）
- 50歳以上の方々の働ける場が少ない。賃金をもう少し上げるべき。そのために県外に出ていく方が多いと思う。（10代／女性／大曲／学生）
- 「大仙市は花火のまち」と言っていますが、他の事業にもぜひ力を入れて取り組んで欲しいです。（40代／男性／仙北／その他）
- 若年者の地元定着と、Aターン等による移住の増加には、労働条件・環境の向上が不可欠と考えます。
1. 賃金水準の向上、2. 完全週休2日制の普及、3. 子育て世代への企業の配慮（手当・学校行事等）、上記のような取り組みをする企業に対して市として支援策を考えてみてはどうでしょうか？
（不明／不明／不明／不明）
- 農業政策に関して農業法人等に対しての支援ばかりが目立ちます。この地域の農業の維持発展が、大規模農業者だけで達成できるのか疑問です。経営規模が5ha～10ha程度の兼業農家も必要と考えます。今後の大仙市の農業及び環境保全等を勘案した時、大規模な専業と中規模な兼業の農業者をバランスよく育成する支援策が必要と考えます。（不明／不明／不明／不明）
- 人口流出を防ぐ為、移住者の受け入れや若者の県外流出にははじめをかける必要があると思う。その為に、ぜひ企業の誘致をお願いしたい。働く場所がなければ、皆県外に出てしまうので。
（50代／女性／中仙／パート・アルバイト）
- 農産物を売るために、さらに工夫していく必要があると思う。山形県へ遊びに行ったばかりで、秋田との差を強く感じた。消費者の目線に立って、かゆい所に手が届くような商売をしている。もうかる産業にならないければ、農業に取り組む人は大きくは増えない。（50代／男性／協和／自営業主・家族従業者）
- 自分の地域でとれた野菜・米などを安価で提供、地産地消（20代／女性／大曲／派遣・契約社員）
- 若者にかぎらず市民が市内に就職するためには賃金を上げる必要がある（40代／男性／大曲／正規社員・職員）
- 職業として農業を始めるのなら、年間を通して安定した収入がなければ意味がない（40代／男性／大曲／正規社員・職員）
- 大曲の全国花火大会について、全部の場所を有料化するのはおかしいと思う（60代／女性／西仙北／専業主婦・主夫）
- 特に県南地区は働く場が少なく思える。その為、若者の定住が進まないように思える。（60代／男性／中仙／パート・アルバイト）
- 名物になるグルメがあってもいい、横手やきそばみたいな（30代／男性／西仙北／その他）
- 企業は気にならない。小さくとも自営をすすめる（80代以上／男性／大曲／自営業主・家族従業者）
- 商業関連のアンケートがあればいい。特に駅前開発に関するものなど。地元住民に対する花火についてのアンケート（40代／男性／大曲／正規社員・職員）
- 若い人たちの働く場所と、楽しめる場所が必要（80代以上／女性／大曲／無職）
- 中高年への仕事を増やしてほしい（70代／女性／大曲／無職）

- 数年前まで県外で過ごし、A ターンの支援制度を利用し地元に戻ってきました。この制度を知ったときは目からウロコ。担当して下さった方が丁寧に説明して下さい、新しい情報を下さったり、手続きをして下さったりしました。遠い地での就職活動、とてもありがたかったことを覚えています。（30代／女性／神岡／派遣・契約社員）
- 移住者には働く場所がなければなりません。大きな会社を建て、誰でも気楽に働ける所が欲しいと思います。都会では給料が高いから、移住者を増やすためにも大仙市でも思い切って給料を上げなければならぬと思います。（80代以上／男性／仙北／無職）
- 各企業の社長及び上に立つ者があまりにも上から目線の者が多い（考え方が古い人間が多い）。働きやすい環境が整っていない。自分の子供にも大仙市に残って就職させたいとは思えない（40代／女性／仙北／正規社員・職員）
- 秋田市や横手市よりも音楽関連のイベント事に対し、遅れている。花火以外のイベントに対し、市でのサポート体制を強化してほしい。（30代／男性／大曲／正規社員・職員）
- 若い人達に秋田に残って欲しくても、親の世代が県内には良い就職先がない、県外の大学に入れて県外に就職させる、と言う人がたくさんいる。親世代の意識を変えなければだめだと思う。（50代／女性／大曲／正規社員・職員）
- 住宅付近に耕作放棄地があり、近所の人と何十年もボランティアで草刈りをしております。高齢になり大変ですので市政でどうにか出来ないか聞きたいです。（70代／男性／協和／無職）
- 若者の働く場があったとしても賃金が安かったり、職種が限られていたり。職場だけでなく、その他の環境にも魅力がなく、他県へ出てしまうのでは（そんなにかわらないと思うのですが）。人口減少を食い止められるような何かがあればいいですね。（40代／女性／西仙北／正規社員・職員）
- もっと大仙に活気が欲しい。自分が20代の頃は町全体に活気があった。今は夜の繁華街が死んでいる。若い世代の人間が飲み歩いていない。非常事態に近いと思う。給料は以前と大して変わらないと思うが、夜の町は若人であふれていたし、飲むことで明日の活力になり元気になった。そんな元気のある若人が今はいない。これは、秋田県の問題かも知れないが、若者を地元に着させるには、せめて仙台レベルまで賃金を上げるしかない。（40代／男性／大曲／正規社員・職員）

出会い・結婚・子育て分野

- 市民ファーストの市政に感謝しております。ありがとうございます。子どもは未来を担う大切な存在ですので、子どもの教育を充実させてくださるとありがたいです。今実施しているシーズン券の継続、子ども全員のマル福、教育現場の支援員増員等の必要性を感じています。どうぞよろしくお願いします。（40代／女性／大曲／正規社員・職員）
- 大仙市の子育て支援事業について、他地域より優れている点が多々あるので今後も継続してもらいたい。（30代／男性／中仙／正規社員・職員）
- 子育て支援は様々あるのに、実際支援を受けたいと思っても支援の対象にならない。子育てタクシーやファミリーサポートも大曲市内だけが充実しており太田では利用できない。このような理由で都市部へ転居する方が多いのではないかと。実際に利用できない支援など全く意味がないと思う。（30代／女性／太田／正規社員・職員）
- 子育て支援に予算をかけすぎのように思います。独身の方が結婚したくなるような雇用の安定を目指してほしいと思います。高齢者が免許証を返却しても不自由しない市にしてほしいと思います。（40代／女性／大曲／パート・アルバイト）

- 今は1歳前後から保育園に入る人が多いので、2歳からは定員がいっぱいで入れない状態です。又、祖父母がいると入れなかったりするが、その上にも高齢の父母の面倒をみたり家の事、農業の手伝いなどしなければならない。それでも入れてもらえない。農家でもなく、祖父母が定年で家にいても入れる地域もあり、不公平だと思う。大仙市全体として考えていると思うが、園のある地域の希望者を先に入れて余裕があったら他の地域の人も入るようにしてほしい。(50代/女性/仙北/不明)
- 老人など福祉充実も必要ですが、これから大人になる中学・高校・大学生など若い人達への支援はもっと大切だと思います。花火に力を入れる前に、曲中にテニスコートの完備。体育施設の充実をするべきだと思います。母子家庭への支援も大仙市は乏しいと思います。収入に関係なく支援をする。住民税などきちっと支払いしているのに手当がもらえない実情を認識してもらいたい。花火の前に子供福祉を考えるべき。(40代/女性/大曲/正規社員・職員)
- 母子家庭で子供が2人います。高校生になるとお金がかかるのに、手当等が消失、減額になるため生活に困っています。就職支援を充実させて頂きたいです。(40代/女性/大曲/正規社員・職員)
- アンケートに子育て支援の事についてはないが、子育て支援が充実していないので、移住とあるが問題の一つだと思う。こんなにも雪が多いのに室内で子どもが遊べる所が少なすぎる。働きたくない人も働かざるを得なくなる。それなのに園に入れない。(30代/女性/大曲/専業主婦・主夫)
- 子どものマル福ありがたい(30代/男性/西仙北/その他)
- 移住や雇用支援も必要ですが、婚活支援などが必要だと思います。人口減少も少子化もまず結婚する人がいないのでは解決は難しいと思います。(30代/男性/西仙北/正規社員・職員)
- 秋田市1人目から保育料無料になったので大仙市もがんばってほしいです。(20代/女性/大曲/正規社員・職員)
- 少子化が問題になっているが大曲市内にて保育所に空きがなくて仙北町や四ツ屋の保育所に預けている人もいと聞きます。子供を持っている若い人たちの支援も必要なのではないかと思います。(60代/女性/大曲/パート・アルバイト)
- マル福を学生のうち(20才くらいまで)は継続してほしい(40代/女性/仙北/正規社員・職員)
- 学童保育を含めた待機児童ゼロの大仙市にして欲しい(70代/男性/大曲/無職)
- 子育てがしやすい環境づくりをお願いしたい(30代/女性/大曲/正規社員・職員)
- 高齢者対策も大事だが、少子化対策がより大事だと思います。スクラップ&ビルドをふまえ効率的・発展的な市政運営を期待します。(60代/男性/大曲/無職)
- 子供が(幼児)遊べる場所がたくさんほしい(屋内、屋外)ともに(40代/女性/大曲/専業主婦・主夫)
- 他市町村より税金、介護保険料が高いようです。子供を産んで育てやすく出来る様な市にして頂きたい。私の住んでいる地域も高齢者ばかりふえていき子供は数える程しかいません。私達も将来が不安です。老後は雪が少ない娘達のいる秋田市に住みたいと思っています。(60代/女性/協和/パート・アルバイト)
- 今住んでいる部落は空き家も多く若い人、子供が全然いない。もっと保育園を増やしたり、子供手当等の支援の充実などあればもっと若い人が増えるのではないですか。秋田県は給料も少ないし、子育てはお金がいろいろかかるので二人目以降がためらわれます。若い人も子供を持つのが不安だと思います。(30代/女性/中仙/パート・アルバイト)
- 子育て支援にもっと力を入れて取り組むべきだと思います。(20代/男性/仙北/正規社員・職員)
- 子育て支援制度の充実(保育体制だけでなく、母子交流の場の拡大)、医療施設が増えて欲しい(特に小児科、皮膚科など)(20代/女性/大曲/正規社員・職員)

- 我が集落一番困っていることは、子供がいない、高齢者が居なくなることは当たり前の事、この先5年10年後は家軒数半分になると思います。市政で一番大事な事は子供をふやす事が何よりも一番の取り組みだと思います。よろしくお願いします。（70代/女性/太田/自営業主・家族従業者）

健康福祉分野

- 私は76才以上にもなり農業はやれなくなり今はなし、息子、家族は勤めて40才代、私には病気寝たきりになった時介護が出来ないので、そのような施設を多くしてほしいのです（70代/男性/大曲/無職）
- 健康診断がん検診等無料化、強制化（20代/女性/大曲/派遣・契約社員）
- 生活保護受給者の調査を厳しくするべきだと思う。働ける身体であるのにずっと受給しているのはおかしい。低所得者でも、必死になって働いているのに、それ以上に生活保護受給者の所得額が上なのは納得いかない（50代/女性/協和/正規社員・職員）
- テーマ3で「ニーズに合った生活支援サービスの充実」とありますが、高齢者、一人暮らしの方が相談窓口として電話する場合、市の社会福祉課なのか、社会福祉協議会なのか、よくわからないとの話を聞きます。ニーズに合った窓口として、高齢者向け、SOS番号を設け、内容によって専門担当につないで欲しいと願っています。（70代/女性/大曲/専業主婦・主夫）
- 高齢者と子供にはたくさんの支援があふれる程あるが、働く世代は何もなく苦しい生活を強いられているように感じています。30才になっても結婚しない世代が多すぎて将来に不安があります。20~40代に対しての支援もお願いいたします。高齢者にいくらお金をつぎ込んでも未来はありません。（50代/女性/仙北/パート・アルバイト）
- 介護職の離職者が増えている一方で、90歳以上の高齢者の数が増え続けている現状で、老老介護の時代に突入した。介護される側、介護する側の意識改革の必要性を感じます。（60代/女性/大曲/専業主婦・主夫）
- 毎年大曲地域各種検診がありますが、前にテレビのニュースで他県の市町村の検診で見落としのような感じで「異常なし」と通知がきてもがんで発見が遅れたなどという報道があり、そのようなことがないか心配です。大曲地域各種検診は安心して受けられるのでしょうか。（40代/女性/大曲/専業主婦・主夫）
- 年金で入所できる介護施設が少ないので、もう少し施設を増やしてほしい（60代/女性/大曲/パート・アルバイト）
- 高齢者や子育てに関する情報は多いですが、病気を抱えながら就労している人への情報や制度についてももっと考えて欲しいです。（40代/女性/大曲/正規社員・職員）
- 労働環境、いじめ、高齢者の孤立と自殺について、少し本気で取り組む時期だと思います。大仙市含め自殺率全国一位がこれだけ長く続いていることは、さすがに異常だと思います。いくら豊かな土地でも、自殺率が高いような所にわざわざ住みたくないし、誰も移住したくないと思います。親子で過ごせる時間の確保、学生のあいさつ運動、首都圏企業の農家体験など人のふれあいを通じて学生や就労者に孤独を与えないような、もっと目に見える形の行動や広報が必要だと思います。（20代/男性/仙北/パート・アルバイト）

都市基盤分野

- 大曲駅前が淋し過ぎる。何とかしてもらいたい。(70代/女性/大曲/無職)
- 商業施設が圧倒的に少ないため、市民が楽しめる場が少ない。電車の本数を増やすべき。将来、大仙市で働いて、暮らしていこうと思っています。お米と野菜おいしいです。(10代/女性/大曲/学生)
- 若者が遊んだりできるような商業施設の充実(夏場プール、フードコート、ショッピングモール、アウトレット etc) (20代/女性/大曲/派遣・契約社員)
- 大曲駅前開発で発展するものと期待していたが、民家だけが建てられている。また駅前開発の体がなされていない。不要な箱物が駅前に集中している。これでは買い物客などの往来はない。(60代/女性/大曲/自営業主・家族従業者)
- 若者がいないと成立しなくなっているのが現状だ。県外から遊びに来るような施設、市内の人でも気軽に遊べる施設を新規に建設等して、若者で雇用を生む事にもつながると思う。高齢者の為の施設よりも若者離れしていくと将来が不安でしかない。(30代/男性/仙北/正規社員・職員)
- 若い人達の娯楽の場(ラウンドワンや室内遊園地など)があればいいと思う(30代/女性/大曲/正規社員・職員)
- 大曲駅周辺にもいろんな店舗が入ったショッピングセンターみたいなものができたらうれしい(40代/女性/大曲/専業主婦・主夫)
- もっと若者が集まる娯楽施設を作る。仙台のアーケードのように大曲のサンロードも変えないと絶対に人はいなくなる。大仙市は花火に力を入れすぎ。花火に力を入れても大仙市が良くなるとはとても思えない。あんなものに力を入れ、金を使うくらいなら少しでも若者が外に出て行かないようにするには何をすればいいか、少子化でなくするにはどうすればいいか、もっともっと真剣に考えた方がいい。このままでは近い将来秋田県は人がどんどんいなくなり、秋田はいつかなくなる。(30代/男性/大曲/自営業主・家族従業者)
- 大曲には遊べる、楽しめる所が全くない。休日は市内から出ないと楽しめる、リラックスする所が無い。足湯などお年寄りが行きたいと思う休める所、小さい子が遊べる公園、水遊び出来る流れる水場がどこにもない。丸子橋の上に足湯やベンチ、人の集まれる所が欲しい。(20代/男性/大曲/正規社員・職員)
- 乗り合いタクシーは乗降所が遠く、そこまで歩いて行けない人もいる。あきらめて高いお金を払ってタクシーで行く人もいる。かわいそうだと思うし自分達もいずれそういう様になると思うと不安です。(50代/女性/仙北/不明)
- 乗り合いタクシーを本当に必要としている人は、高齢者の方々だと思う。でもバス停が遠く、利用するのも大変ではないか。家まで来てくれれば、買い物も心配なく買い置き分など少ない回数で済むのではないだろうか。また、便利になれば免許(運転)の返納をしてくれる方も増えるのではないのでしょうか。(30代/女性/中仙/正規社員・職員)
- 高齢化に向けて、運転できなくなる事を考えると、乗合タクシーは一つの手段ではあるが、雪下ろし、除雪も考えると、自分の足で買い物、通院できる場所に住む生活が一番良いのではないかと思います。広い自宅も必要なくなって、交通網も単純なものに変えていく町づくりに今後の何十年かで取り組んでいくのも一つの方法ではないのでしょうか。(50代/女性/大曲/正規社員・職員)
- 乗り合いタクシーよりは路線バスの方が良いと思います。(70代/男性/仙北/無職)
- 大曲地域でも足が無く病院、買い物に行く際不便な方が沢山いるので、乗り合いタクシー等安く便利に使える交通手段を増やしてほしい。(30代/女性/大曲/正規社員・職員)
- 国道105号線のノロノロ運転を改善していただきたい(50代/男性/中仙/自営業主・家族従業者)

- ねんりんピックで関東の方から来た方々が、大曲に初めて来たようで仙北ふれあい文化センターへの行き方がわからなくて困っている様子を見かねて声を掛けました。ガイドブックのようなものには移動手段も書いておらず、県外から多くの人があるのに不親切だなと感じました。せっかくの大会なのに大仙市や秋田県はもっと案内の仕方があったのではないかと感じました。大仙市も交通手段が少ないのでバスの時間や乗り場の案内をもっとよくできる方法があったと思いました。初めての方にももっとわかりやすく親切であってほしいです。（30代／男性／大曲／正規社員・職員）
- 家の前に深い側溝がありますが、水は流れておらず雨の時たまった水があるだけです。冬に少しでも水が流れてくれればずいぶん雪が捨てられ楽になると冬が来るたびに思います。側溝は土地改良区で40年程前に整備したものです。田んぼの水のため作った様ですが今はほとんど田んぼがなくなり活用されておりません。（60代／女性／大曲／無職）

環境・安全分野

- 大雨で人的被害がなかったのがよかった、初動よし（30代／男性／西仙北／その他）
- 災害体制時の広報をもっと細かくしてほしい。付近に市役所職員がいないため、他の地域に比べ何事も遅れていることが多い。市会議員の定数が多いと思う。（50代／男性／西仙北／正規社員・職員）
- 気象異常で集中豪雨が仙北を襲いましたが、災害や地震に対する市民の意識や意見のアンケートもとりたいらどうでしょうか。命に対する考え方も大切です。（60代／女性／大曲／専業主婦・主夫）
- 大雨で2回避難しました。避難する方もはじめて、役所の方々もはじめて？ 対応がスムーズでない場面もありました。そんな中、赤十字の方々の炊き出しはありがたかったです。（60代／女性／中仙／専業主婦・主夫）
- 災害に対して素早い対応、災害後のいろいろな問題に積極的に応対してほしい。（60代／男性／西仙北／専業主婦・主夫）
- 福部内川の増水の際下流でポンプで排水していますが、地域内に床下等に浸水しています。大容量のポンプを設置し早期に排水してもらいたい。（70代／男性／大曲／無職）
- 様々な災害に対して、今一度危険箇所の把握を徹底し、未然に防ぐことの出来る所は早急に対処してほしい。特に河川に関しては何をしておいても対策をお願いしたいです。（40代／女性／大曲／専業主婦・主夫）
- 災害時における市の担当者の説明、指示が不明、担当者も理解していないことが多い。もっと公務員としての教育をしてほしい（60代／女性／大曲／自営業主・家族従業者）
- 町内会の自主防災組織について、当町内会では、数年前に防災組織及び連絡網ができたが、当時の会長が市から早く防災組織を作るように急かされて本人の承諾を得ることなく組織連絡網が作られた。町内の事なので特に苦情はなかったようだが、連絡網といっても電話番号が書かれている訳でもなく、災害時の連絡の流れの記述もなく、何かの時は全く機能しないと思う。市には災害の際、まずは自分の身を守る、家族を守る、近所を助ける等避難等の連絡の流れなど詳しい防災マニュアルを作って各世帯に配って欲しい。世帯数が多い町内会なので、自分たちで考えてもなかなかいい流れがわからない。町内としては、マニュアルを元に防災組織、連絡網を見直して機能できるように真剣に考えていきたいと思っている。（60代／男性／大曲／自営業主・家族従業者）
- 自然災害に対する避難経路の手順と訓練の遂行（または推考）。いつ起こるかわからない災害に備え、動ける高齢者は自力で頑張れるよう心がけた生活を送って欲しい。（60代／女性／大曲／専業主婦・主夫）

- 近年水害が頻繁に起きており、大雨が降るととても不安になります。排水ポンプの設置や堤防の強化など、河川事業について特にお願ひしたいです。(10代/女性/大曲/その他)
- 除雪車による間口に雪が多量に置かれている時があります。夫も高齢になり体力的に大変です。(70代/女性/協和/専業主婦・主夫)
- 除雪技術コンテストをやってください。現状でも(秋田市などに比べ)十分な除雪がされていますが、請負業者によって市内でもクオリティに差があります。その差を小さくする為にやってください。(あと、市としてどの程度の除雪であれば合格なのかも知りたいです)(10代/男性/大曲/学生)
- 歩道に雪を毎朝おいていかれて、バス停もあるのにありえない。家からも来るまで出られない!!一軒一軒確認して、役所で対応しろ!!とりあえず、合貝地区市民センター前道路雪を何とかして下さい。毎日×10000、こりごりです!!(30代/男性/協和/正規社員・職員)
- 屋根から転落防止するような助成ある?(30代/男性/西仙北/その他)
- 冬の除雪(105R)が毎年でこぼこで事故が多いので、同じ業者じゃなく、上手い方にしてもらいたい。(40代/女性/中仙/パート・アルバイト)
- 「高齢者等雪対策総合支援事業」について 高齢で一人では下ろせないため、近所の人の家に下ろしに来た人に頼んでいる。人によって金額が違うが、他に下ろしてくれる人はいないため下ろしてもらっている。高齢者一人暮らしの家を回って必要な人の家を支援して欲しい。(80代以上/女性/大曲/無職)
- 屋根の雪下ろし、ブルの雪寄せ、車の事故、道路が暗くて困っています(80代以上/女性/仙北/専業主婦・主夫)
- 除雪について、左側だけに除雪された雪が多くて困っている。右側、左側に均等にできないでしょうか?(60代/女性/西仙北/専業主婦・主夫)
- これまで行われてきた可燃物、不燃物、資源ゴミ等の実績等がどのようになっているのか知りたいです。町内の会合でも同様の話題が挙がったことがありました。市民の中にも興味のある方がいると思っています。解説していただきたいこと： ・可燃物、不燃物、資源ゴミ等の回収、処理量および経費の推移(可能であれば他県、他市等との比較)、 ・資源ゴミ回収後リサイクルされるまでの実際の流れと収益があるのかどうかなど、 ・古着、廃油等の回収後の流れなど、 ・その他ゴミ処理部門の概要等、ゴミに関して興味を持つような事柄(不明/男性/協和/不明)
- 「市民が安心・安全に生活できる大仙市」を期待しています。(50代/女性/南外/専業主婦・主夫)

教育・スポーツ分野

- 英語よりもまず母国語を正確に理解し、使えることが重要である(40代/男性/大曲/正規社員・職員)
- 行っている学校もあるかも知れませんが、米どころ大仙市なので、小中学校の皆さんに田植え、稲刈り等の体験をしてほしいと思います。(60代/女性/仙北/無職)
- 幼少期からの地元の魅力を発見し、また再確認し、一過性のものとせず事あるごとにどんな小さな事でもご縁に触れさせることが大事だと思います。(60代/女性/大曲/自営業主・家族従業者)
- 私は大仙市が大好きです。子供達は保育園、小学校ですが、色々な悩みや問題を抱えている現状を見て、本当にびっくりしております。私の子供もですが、クラスには発達障害寄りの子供がいますが、そういったことに早く気づいて、子供のために正しい教えを市政の「力」で頑張りたいです。(40代/女性/大曲/自営業主・家族従業者)

交流・行政運営分野

- 各個人に対して手続きが必要な知らせや予防接種など広報で知らせる他に封書で送って頂きたい（振り込みだけでなく）（30代／女性／大曲／パート・アルバイト）
- 大仙市には花火しかないのでしょうか。誘致工場も少ないし水道代等も他市より高く、あまり魅力も無いかも。市職員の中には外でウラウラしている人も見かけるし、税金の無駄遣いと思う人が見受けられます。（60代／女性／大曲／正規社員・職員）
- ますます少子高齢化が進むが、住みやすい市づくりを今後とも市民の意見を参考に進めていってほしい。（40代／男性／協和／その他）
- 市民が静かに安心して暮らせるように市役所の皆様が365日、努力されている姿に本当に頭が下がります。ありがとうございます。人口構成の変化や生活の多様化に伴う価値観の変化に対して市の迅速な対応には感謝しております。豊かな自然や美味しい食べ物、田舎とはいえ、情報も都会と変わりなく共有できる現代、先入観や偏見にとらわれずに老若男女の移住者も快適に住み続けることができる評判の市になれば良いですね。（10代／女性／不明／学生）
- 若者が入るようにすることだけでなく、「出ないこと」ももう少し力を入れて下さい。特に、大仙市の都市化が急務だと思います。意見が反映されることを切に願っています。私も先が見こめなければいずれは地元を離れようかと考えています。（20代／男性／協和／正規社員・職員）
- 特に高齢者の生活がサポートできる町のしくみが必要と感じます。また、空き家対策も。都会からの移住者、また企業や起業、農業を始めたい人々への継続したPRと支援を続けていく必要があると思います。（50代／女性／大曲／正規社員・職員）
- 市職員の給与形態が秋田県人の平均所得より明らかに逸脱した高額な給与をもらっていると思います。このような状況で行政を行っても市民は納得しませんし、格差が広がる。今一度秋田県の企業に合わせた給与形態に改善すべきです。小さな子供が親のエゴで将来は公務員になりたいというのは夢のない証拠です。夢のある市町村にしたいなら自分たちから見つめ直して下さい。（30代／男性／大曲／正規社員・職員）
- アンケートの内容を実施できるよう、努力をお願いいたします。（40代／女性／太田／無職）
- 地域の集会所等で気軽に話し合う場があればよいと思います。（70代／男性／大曲／無職）
- 税金の無駄遣いをなくしてほしい。なぜこんなに税金が高いの？毎年大変な想いで支払っている（50代／女性／大曲／専業主婦・主夫）
- 市民税に対して不満あり（60代／女性／西仙北／専業主婦・主夫）
- 大曲地域だけではなく、他の地域へもっと目を向けてほしいと思う（60代／女性／西仙北／専業主婦・主夫）
- 若者達が将来安心して働けるような、そして夢をもって、魅力のある町作りをしてもらいたいと思います。（60代／女性／大曲／専業主婦・主夫）
- 大仙市が、地域により助成金の変動があるように感じる。全体を均等にとまではいなくても、人口の少ない地域にも、もう少し助成金を出すべき。支所により年間の予算以外を本所に請求せず、住民の声が届かないので、もう少し住民に住民が要求した事、陳情した事に向き合って仕事をしてほしい。4月に「予算がないので」の答弁は聞きあきた。（30代／女性／中仙／パート・アルバイト）
- 大仙市が魅力的且つ生活環境が充実していれば良いとは思いますが、現実として限界集落が多々ある。人がいなくなれば生活環境も不十分になり、魅力がなくなる。全国的に言える悪循環を打破するには大きな改革が必要（40代／男性／協和／正規社員・職員）
- 施策の遂行には、常に多角的視点からのトータルバランスを考慮する必要があると思っています。（50代／男性／大曲／正規社員・職員）
- 少子高齢化問題、若い世代が安心して働ける場の確保。（60代／女性／大曲／専業主婦・主夫）

- 各地域にはそれぞれに消防団・交通安全会更には登下校時の子供見守隊等々様々なボランティア的な活動がありますが、各団体は人員不足が慢性的になっています。市役所初め各会社では定年退職を迎える人達がいいます。60歳はまだまだ元気でもったいない年齢だと思います。そういう人達を市が率先して、これらの活動のPR窓口になって貰えたらと思います。若い世代が少なくなっている現状では中年パワーは是非必要だと思います。(60代/男性/大曲/無職)
- 大曲地域のみ繁栄しているので、他の地域にも目を向けて欲しい。(50代/女性/神岡/正規社員・職員)
- これから益々少子高齢化になると思います。若者が地元に残れるように魅力ある市政を。みんなが安心して暮らせる市になっていただきたい(60代/女性/仙北/専業主婦・主夫)
- 広い大仙市。大曲地域だけではなく、他の地域の活性化にも力を注いでほしいです。子供の人数が少なく、子供達の活動がしにくいです。(30代/女性/中仙/正規社員・職員)
- 移住定住について、市民に対して「人には多様な価値観がある」「生活の仕方がある」などの教育や指導を行い、首都圏等からの移住者への理解を深めなければ定住は難しいと考えます。首都圏等の人々は「便利な生活」に慣れており、それに近い環境であれば移住定住する可能性もあると思います。大仙市は農業が主であるため昔ながらの考え方に固執する傾向があり、特に首都圏等からの移住者は多方面で苦労が絶えない。楽しくないと感じることが多いと思います。「移住タウン」などの発想があっても良いかと思えます。まずは、所得水準を首都圏並みに近づける必要があると思います。私自身がUターンした者であり、Uターンするべきでなかったと考えております。難しい問題だと思います。(50代/女性/南外/専業主婦・主夫)
- 大仙市の学校ではあいさつ運動が定着しており、子供達がさわやかなあいさつをしてくれることを大変うれしく思っていますが、市役所に出入りしていて最近大変感じるのは、ネームプレートをつけていて、明らかに職員と思われる人でもすれ違いざまにこちらがあいさつをしても無反応の人や市職員としての自覚があるのだろうかと思うような対応が見受けられます。もちろんそういう方ばかりではありませんが、どんな時でも安心と喜びを感じられる空間であって欲しいと思います。(40代/女性/大曲/自営業主・家族従業者)
- 行政の方々について、今回の豪雨に対してボランティアを集うだけでなく、非日常の支援については積極的に参加してもらうことを希望します。現場に出向していただくしくみ作りを！民官の連携が必要。年に何日はボランティア活動を。(50代/男性/中仙/正規社員・職員)
- 職員の対応に不満がある。知人、友人には親切だが、他人には上辺だけの対応をする。いろいろな制度があっても、知らずにいる事が多い。情報も、ネット等で流してもネット環境を持っていないと情報も届かない。知らないことが多い。年寄りに気遣いが欲しい。(50代/女性/大曲/派遣・契約社員)
- 市民税が高すぎる(30代/男性/西仙北/正規社員・職員)

その他

- インターネットでの回答も出来ると手間がはぶける。(60代/男性/大曲/自営業主・家族従業者)
- 私個人Uターンですが、後悔しています。交通の便が悪い、車がないと家に閉じこもり何かの講習会に参加しても自分の居場所がなく(たぶん言葉でしょうか?)今はなるべくバスを使用したり、身内に助けられたりしながら生活していますが、都会へ行こうと思ったりもします。一緒に来た子供も仕事が見つからず・・・年金だけの生活はつらいです。(60代/女性/太田/無職)
- 私自身が移住者ですので、移住してきた方々に問う設問があってもよいと思います。(40代/男性/大曲/正規社員・職員)

- 前市長が市長選挙になぜ立候補しなかったのか・・・市政に対する不信感を感じます。(60代/男性/仙北/自営業主・家族従業者)
- 市代表である議員さんの活動について一言 この度の水害について一部議員さんは本当に良く見て廻って災害に遭われた方々に会い話をされ、早く復旧されますようにと声を掛けて見て廻っている議員さん、又は一度も顔を出さずにいる議員さん、本当に地元代表である議員なのに残念である。これは議員の皆さん声を掛け合い活動をして戴きたいものである。(80代以上/男性/西仙北/自営業主・家族従業者)
- 70代にはわかりづらいアンケートでした(70代/女性/西仙北/専業主婦・主夫)
- 山の麓に太田あり、と自慢しておりましたが、農業の状態が以前と変わり、若い後継者が大仙市の中心部へ、又近い所に新居を構える方が増えるようになり寂しい思いをする昨今です。まだ、今は子供達の元気な声が私達をいやしてくれます。この様な宝物を増やしたいものと思う昨今です。(70代/女性/太田/自営業主・家族従業者)
- 今年は災害等があり大変ですが、市の職員のみなさんはよく働いて下さっていると思います。花火も成功してよかったです。高齢者が多くなっていきます。若者が大仙に残って働けるよう特に農業林業などへの就労ができるよう考えていければいいですね。(60代/女性/中仙/正規社員・職員)
- 高齢者、年金受給者には判断出来ないテーマが多い(80代以上/男性/大曲/無職)
- にしせん未来塾発「GOGO!!綱が〜」をよろしくお願いします。(30代/男性/西仙北/自営業主・家族従業者)
- テーマ2の農業のアンケートは、自分がやっているわけでもないし詳しい内容も知らないので答えづらいアンケートでした。(50代/女性/仙北/パート・アルバイト)
- 私達夫婦は2人で158才です。増産時代に農業を家族4人でやっていましたが農業だけでは生活がむずかしくなり結局老人達の農業となりました。しかし周りも同様でした。おかげさまで2人共元気の現在です。車運転もやりますので、まずまずの今日です。どうか老人に明るい大曲であってほしいです。(70代/女性/大曲/無職)
- 90才以上の高齢者で知らないことばかりでアンケートにお答えできませんでした。(80代以上/女性/西仙北/無職)
- 秋田県(大仙市)には魅力がない(40代/女性/仙北/正規社員・職員)
- 今回のアンケートの意向がよくわからず、あいまいな事が多かった(30代/女性/協和/パート・アルバイト)
- 大きい家でも同じ屋根の下で別々に生活している人がすごく多い。いずれ若い人も老人になっていくのだから、家族が寄り添って一緒に仲良く暮らすことができないのか、と思います。我が家は農業ですが、若い人達はその収入だけでは生活ができません。農業のマイナス金をそれ以外で働いたお金で埋めているありさまです。農業は苦しいです。(80代以上/女性/中仙/無職)
- 何十年も前から、現状のようになると分かっているながら職場の誘致ができなかった、老人県になってしまいました。(70代/男性/大曲/無職)
- 無作為とはいっても年齢の上限は考えた方がよいと思います。(80代以上/女性/大曲/無職)
- 市の要望でJRが変更した大曲駅の在来線ホームの発車ベルについて、とてもうるさいです(おばこ節)。昔のベルに戻すとか、今年から変更された新幹線ホームのものに変えるとか、もう少し静かにして下さい。(20代/男性/仙北/パート・アルバイト)
- 高齢で大変難しいアンケートでした。(80代以上/女性/大曲/無職)
- 今回のアンケートで市が色々な支援事業をしていることを知ることができました。また今回のアンケートを参考にして支援事業をよりよいものにしていてもらいたいと思います(60代/男性/大曲/無職)

- 県外で仕事をしている長男がいます。大学を出ても市で働く企業の枠が狭く、またコネもあると良く聞きます。ますます人口も減りUターンしたいと行っても親は年を取るしどうかこれからのことよろしく願います。(50代/女性/不明/正規社員・職員)
- 選挙制度の体制の改革(高齢の方しかいないので年齢別の定数を設けて世代のバランスを設けてほしい)(30代/女性/大曲/正規社員・職員)
- とても勉強になりました。ありがとうございました。(60代/女性/大曲/専業主婦・主夫)
- 老人で何もわかりません(80代以上/男性/太田/不明)
- 私自身がUターンで実家に戻ったのですが、農業経験の無い夫の職探しには本当に苦労しました。若ければ他地域の工場など考えますが、50才を過ぎると、ほとんど選択出来るものが無く、結果、時間給のパートのような仕事に就きました。親の介護のためとはいえ、戻ったことを後悔した時もありました。農業地域で農業以外で収入を得る難しさを痛烈に考えさせられる地域だと思えます。(50代/女性/太田/パート・アルバイト)
- 大仙市は自然がいっぱい!空気がきれい!お米・農産物が美味しい!人が温かい!花火以外にも魅力いっぱいの素敵な大仙市を、県内外にもっともっとPRしていけたらよいと思います。(20代/女性/南外/派遣・契約社員)
- 大仙市議の人数が多すぎる。もう少し削減した方がよい。(30代/男性/西仙北/正規社員・職員)
- 妻と二人暮らしです。雪寄せ、雪下ろし等、近年の自然災害など、5~10年後の生活がとても不安です。所有している不動産(宅地、畑、田)を市に寄付し老人専用集合住宅で生活できることをお願いしたいです。(60代/男性/大曲/無職)
- ここ数年目に見えて地域に元気がなくなっているのを実感しています。若い人がいない、老人に元気がなくひきこもりがち、なかなかいいことが思い浮かびません。とても寂しい限りです。(50代/女性/大曲/専業主婦・主夫)
- 自分に関係ないアンケートが多すぎる(50代/男性/大曲/自営業主・家族従業者)
- 大仙市のため 良い方向に向かうようがんばってくれば良いと思います(50代/女性/大曲/パート・アルバイト)

4. 資料【平成 29 年度「市民による個別事業評価」調査票】

平成29年度市民による個別事業評価

日頃から市政の推進に対し、ご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

市ではこれまで、市政運営を効果的かつ効率的に行うため、「市民による市政評価」を実施し、評価結果を施策等に反映するよう努めてまいりました。

今年4月に実施した「市政評価」では、市政全体における分野別の「満足度」と「重要度」、及び「今後さらに推進すべき取り組み」について調査しました。

今回実施する「市民による個別事業評価」では、市で実施している事業等に関する「評価・要望」を調査し、来年度以降の施策に活用させていただきます。

皆様には大変お手数をおかけいたしますが、本調査の趣旨をご理解の上、ご協力くださいますようお願いいたします。

平成29年9月

大仙市長 老松 博行

《ご記入にあたって》

このアンケートは、18歳以上の市民の方々の中から、1,100名を性別・年齢層・地域を考慮した上で無作為に選び、調査票をお送りしています。

★回答は、このアンケート調査表に直接お書きください。

★回答方法は、該当する項目等を選び、あてはまるところ（番号）に「○」印をつけてください。

★ご自身に直接関係がない事業もありますが、可能な限りすべての設問にお答えください。

★ご記入いただいた回答は、すべて統計処理いたしますので、個人に関する情報が明らかになることはありません。

★ご記入にあたっては、黒の筆記用具をご使用願います。

《アンケート用紙の返送について》

★ご記入いただいたアンケート用紙は、平成29年9月29日(金)までに同封の返信用封筒に入れてご投函ください（切手は不要です）。

★アンケート用紙や返信用封筒にお名前をご記入いただく必要はありません。

《問い合わせ先》

大仙市役所 企画部総合政策課

電話：0187-63-1111（内線278） FAX：0187-63-1119

E-mail：sougou@city.daisen.akita.jp

テーマ1：「雇用・就労についての支援事業」について

【事業概要】

市では、企業向けや個人向けに各種支援制度を実施したり、市内の企業情報を市の広報やホームページ等で紹介したりするなど、市内企業での雇用の促進を図っています。

また、若い世代の地元定着のための取り組みとして、高校生を対象とした「地元企業説明会」や「職場体験」、未就職者を対象とした「若者就職応援講座」を開講し、若者の雇用と定住の促進に努めています。

問1 大仙市が実施している雇用・就労に関する支援制度について、次のうち
知っているものの番号すべてに○印をつけてください。

【事業所に対する支援制度】

1. 雇用助成金	市民の方（特定の）を新規採用した事業所に対する助成金
2. 人材獲得応援補助金	企業の求人活動、社員教育や労働環境の整備に対する補助金

【個人に対する支援制度】

3. Aターン就職活動支援事業	市内の企業へインターンシップや就職活動を行った人の交通費、宿泊費の一部を支援する補助金
4. 若者求職者資格取得補助金	求職者等が就職に役立つ資格を取得した場合に経費の一部を支援する補助金 ※労働安全衛生法による資格が対象
5. 県南地区職場研修・企業説明会	高校3年生を対象とした職場研修を行い地元企業の職場を体験・高校2、3年生を対象とした地元企業の説明会
6. 若者就職応援講座	概ね30歳までの求職者を対象に就職に役立つ講座を開講する

問1-1 問1で○を付けた方にお尋ねします。その支援制度の情報をどこで知りましたか？
あてはまる番号すべてに○印をつけてください。

1. 市の広報
2. 市のホームページ
3. 学校
4. ハローワーク
5. 知人、友人、家族
6. その他施設に設置してあるチラシ・ポスター
7. その他()

問2 あなたが今から就職活動を行う場合、どこで情報を仕入れますか？
主に利用するもの最大3つまで○印をつけてください。

1. 学校
2. ハローワーク
3. インターネットの求人情報サイト
4. インターネットの企業情報
5. 知人・友人・家族からの口コミ情報
6. 新聞などの折り込みチラシ
7. その他()
8. 退職・自営業等のため、今後も就職の予定はない

問3 若者が市内に就職するため必要な取り組みは何だと思えますか？
必要だと思うものに○印をつけてください。（複数回答可）

1. 地元企業のPR
2. 職場体験希望者の年齢拡大(高校生だけでなく、未就職者も体験可とする)
3. 賃金を上げる
4. 福利厚生充実
5. その他()

問4 大仙市では、平成26年9月から広報「だいせん日和」内のコーナー「だいせんものづくり図鑑」で、大仙市内のものづくり企業（製造業の企業）を紹介しています。
このコーナーを知っていましたか。

1. 知っている
2. 知らなかった →次ページのテーマ2へお進みください

問4-1 問4で「1. 知っている」と答えた方にお聞きします。当コーナーを読んだあなたの感想としてあてはまるものに○印をつけてください。（複数回答可）

1. 興味をもった企業があった
2. 働いてみたいと思える企業があった
3. 興味をもった企業はなかった
4. 働いてみたいと思える企業はなかった
5. 掲載された企業の中には、既に企業の内容まで知っている企業があった
6. 名前だけは知っている企業はあったが、何をやっているかまでは知らなかった
7. コーナーがあることは知っているが、内容はよく読んでいない



テーマ2：「農業の担い手支援事業」について

【事業概要】

市では、新規就農者を支援するため、東部（太田）・西部（西仙北）にある研修施設2か所において、栽培技術や就農に必要な知識に関する研修を行っています。また、研修奨励金による財政的な支援や経営指導なども行っています。

県においては、県立試験場での同様の研修や新規就農者を支援する助成制度、機械・施設の購入等に必要な資金の無利子での貸し付けなど、さまざまな支援制度があります。

【大仙市新規就農者研修とは】

対象：市内在住のおおむね50歳以下の者で、研修後に市内で農業を営む者

研修期間：1年間（最大2年間）

研修場所：東部新規就農者研修施設（太田地域横沢）
西部新規就農者研修施設（西仙北地域強首）

奨励制度：奨励金 通年研修：75,000円／月 冬季研修（6ヶ月）：75,000円／月

問1 あなたは、市の新規就農研修施設で通年ならびに冬期の研修を行っていることを知っていましたか。

1. 知っていた 2. 知らなかった

問2 あなたは、農業をやってみたいと思いますか。あなたのお考えに近いもの1つに○印をつけてください。

1. 現在専業でやっている（準備をしている）
2. 現在兼業でやっている（準備をしている）
3. 専業でやりたいと思っているが今はやっていない
4. 兼業でやりたいと思っているが今はやっていない
5. ごく小さい規模で自給・趣味的にやっている、やってみたい
6. やらない、やりたくない
7. できない、既に引退した

問3 これから農業を始めるとした場合、特に課題と思われることは何だと思いますか。
最大3つまで○印をつけてください。

1. 栽培技術の習得
2. 経営知識の習得
3. 農地の確保
4. 初期費用の確保
5. 運転資金の確保
6. 冬期間の仕事の確保
7. 受入地域の農業者の理解
8. 分からない

問4 今後さらに新規就農者を確保するために取り組むべきことは何だと思いますか。
最大3つまで○印をつけてください。

1. 就農後の経営が軌道に乗るまでの資金援助
2. 特産物となり得る作物栽培の奨励
3. 伝統野菜等の栽培普及
4. 初期投資に対する助成の充実
5. 農地取得希望者と農地所有者とのマッチング(引き合わせ)
6. 農作業体験の拡充
7. その他()

問5 今後、新規就農者研修施設で力を入れて取り組むべきことは何だと思いますか。
重要だと思うもの最大3つまで○印をつけてください。

1. 各種イベント等への参加によるPR
2. 地域農業者との交流による実践指導の充実
3. 農業の通年栽培に向けた研修内容の拡充
4. 経営知識の習得に向けた研修の拡充
5. 研修終了後のサポート体制の拡充
6. その他()



テーマ3：高齢者の「生活支援体制整備事業」について

【事業概要】

市では、高齢者が住み慣れた地域で自立した生活を続けていくことができるように、様々な組織や人によって構築したネットワークで行う相互連携や情報共有を図るとともに、ニーズに合った生活支援サービスの充実に向けて、地域における支え合いの体制づくりを推進しています。

問1 もしあなた自身に介護が必要になったとき、どこで過ごしたいと思いますか。
あてはまるもの1つに○印をつけてください。

1. 自宅
2. 介護用施設
3. その他()
4. わからない

問2 地域で、みんなで支えあうために必要なものはどのようなことだと思えますか。
重要だと思うもの最大3つまで○印をつけてください。

1. 声かけ
2. 見守り
3. 居場所・サロン（「井戸端」のように誰でも気軽に立ち寄っておしゃべりできる場所）
4. 交流の場（体操教室等の目的のある集まり）
5. ボランティア活動
6. 安否確認の仕組み・ネットワーク
7. 町内・自治会活動
8. その他()
9. わからない

問3 近所や地域の方に対して、あなたができることはありそうですか。
できそうなものすべてに○印をつけてください。

1. 安否確認
2. 相談・話し相手
3. 買い物支援
4. 雪寄せ
5. ゴミ出し
6. 室内の掃除
7. おかずの提供
8. 通院や外出の手伝い
9. その他()
10. 何もできない

テーマ4：「地域や生活の実情に即した公共交通の整備」について

【事業概要】

市では、自力で移動することが難しい市民の方の移動手段を確保するため、各地域の実情に沿った交通システム（コミュニティバスや乗合タクシー等）の運行を行い、その検証及び改善を行いながら、より利用しやすい地域公共交通体系の確立を目指しています。

【乗合タクシーとは】

市民を対象に、タクシー車両を使って、決まった時間・決まったルートを予約により運行しています。

利用には事前登録が必要で、一乗車につき500円（一部区間は300円）で利用できます。現在、大仙市内で35路線が運行されています。

問1 あなたは「乗合タクシー」の制度を知っていますか。

1. 知っている →問2へ 2. 知らない →問3へ

問2 あなたは「乗合タクシー」を利用していますか。

1. 利用している(利用したことがある) →問4へ 2. 利用したことがない →問3へ

問3 「乗合タクシー」を利用したことがないと答えた理由について、最も近い番号1つに○印をつけてください。

1. 利用する必要がないから(他の移動手段があるから)
2. 自宅の近くにないから(路線や乗降所が遠いから)
3. 時間が合わないから(乗りたい時刻がないから)
4. 利用の仕方が分かりにくいから
5. その他()

問4 すべての方にお聞きします。多くの方に「乗合タクシー」を利用していただくために必要だと思うことは何ですか。もっとも必要だと思うこと1つに○印をつけてください。

1. 自宅まで迎えに来てくれる
2. 1日の運行本数を増やす
3. 土・日・祝日も運行する
4. 分かりやすく情報発信する
5. その他()



テーマ5：「高齢者等雪対策総合支援事業」について

【事業概要】

市では、冬期間でも自宅で安全・安心に暮らせるよう、自力で除雪することが難しい高齢者等世帯を対象として、間口除雪や屋根の雪下ろし等にかかる費用の一部を助成したり、その世帯の雪下ろしを担当する事業者の割り当てを行ったりしています。

問1 高齢者等雪対策総合支援事業を利用していますか？
あてはまる番号1つに○印をつけてください。

1. 自分の世帯で利用してる →問2へ
2. 別居の家族、親族が利用している →問2へ
3. 利用していない →問4へ

問2 問1で「1 自分の世帯で利用している」又は「2 別居の家族、親族が利用している」とお答えの方にお聞きします。事業の内容について満足していますか？
あてはまる番号1つに○印をつけてください。

1. 非常に満足
2. 満足
3. やや満足
4. やや不満
5. 不満
6. 非常に不満

問3 問1で「1. 自分の世帯で利用している」又は「2. 別居の家族、親族が利用している」とお答えの方にお聞きします。事業内容で改善してほしい点はどこですか？
もっとも必要だと思ふもの1つに○印をつけてください。

1. 利用申込のための各種手続
2. 自己負担額の割合
3. 自己負担金の支払い方法
4. 間口除雪に関する各種仕組み
5. 雪下ろし事業者の割り当て
7. 特になし
6. その他()

問4 問1で「3. 利用していない」とお答えの方にお聞きします。その理由は何ですか？
あてはまる番号すべてに○印をつけてください。

1. この事業を知らなかった
2. 支援対象となる条件を満たしていない
3. 支援内容に不足・不満があり、魅力を感じない
4. 自分の世帯で十分に除雪ができています
5. 親族や、自治会、近隣の世帯からの支援を受けている
6. 別の制度により、支援を受けている
7. その他()

テーマ6：「グローバルジュニア育成事業(外国語指導助手等招致事業)」について

【事業概要】

市では、児童・生徒の国際感覚、コミュニケーション能力の向上を図るため、市内 21 の小学校・11 の中学校に対して、外国人の外国語指導助手（ALT）等 9 人を配置しています。

【外国語授業について】

外国語の授業については、現在、小学校 5・6 年生では週 1 時間、中学校では週 4 時間の外国語の授業が実施されていますが、平成 32 年度から小学校での授業時数が増え、3・4 年生で新たに週 1 時間、5・6 年生では週 2 時間の外国語の授業が実施されることになりました。

問 1 市内小中学校の授業の一部を、学級担任や教科担任と一緒に外国人の外国語指導助手（ALT）が指導していることを知っていましたか。

1. 知っている
2. 知らなかった

問 2 この外国語指導助手（ALT）の指導について、必要だと思いますか。
あなたのお考えにもっとも近いもの 1 つに○印をつけてください。

1. とても必要なことであり、ALTの人数や一緒に授業する時間を増やすべき
2. 必要だと思うが、ALTの人数や一緒に授業する時間は、今のままでよいと思う
3. あまり必要だと思わないので、ALTの人数や一緒に授業する時間は減らしてもよいと思う
4. 必要ない

問 3 あなたは、子どもたちが将来社会に出て生活していくには、英語はどの程度必要だと思いますか。あてはまる番号 1 つに○印をつけてください。

1. 必ず必要になる
2. 必要な場合がある
3. あまり必要ない
4. まったく必要ない



テーマ7：「移住・定住への支援」について

【事業概要】

市では、平成28年度に移住・定住に関する具体的な実施計画として「大仙市移住・定住促進アクションプラン」を策定し、首都圏等から移住者を呼び込むため、大仙市の魅力発信や地元を離れた方がふるさと大仙に戻って来たくなる施策などを推進し、移住者の増加を目指しています。

問1 あなたは移住者（地元出身者のUターン移住を含む）の方を受け入れていきたいと考えていますか。あなたのお考えにもっとも近いもの1つに○印をつけてください。

1. 積極的に受け入れたい →問2へ
2. 移住して来てくれる方がいれば受け入れたい →問2へ
3. 移住した方を拒むことはないが、積極的に受け入れたいとは思わない →問3へ
4. 移住者の受け入れには抵抗がある →問3へ
5. 気にしたことがない →問3へ

問2 問1で「1」と「2」に○を付けた方にお聞きします。どのような移住者の方に来て欲しいですか。あてはまる番号すべてに○印をつけてください。

1. 年齢・出身地に関係なくどんな人でも来て欲しい
2. Uターンの方(大仙市出身の移住者)
3. Iターンの方(大仙市以外出身の移住者)
4. 若い世代の方
5. 元気なシニア世代の方
6. その他()

問3 あなたの地域に大仙市外から移住してきた方はいらっしゃいますか。

1. いる → 問4へ
2. いない、知らない → 問5へ

問4 問3で「1」に○を付けた方にお聞きします。その移住者の方とあなたはどの程度の間柄ですか。あてはまる番号1つに○印をつけてください。

1. 常にコミュニケーションがとれている
2. ときどき話をする程度
3. あいさつをする程度
4. 話をしたことがない

問5 移住者の方が大仙市で問題なく暮らしていくためには、どのようなサポートがあればよいと思いますか。あてはまる番号すべてに○印をつけてください。

1. 地域の方との交流の場づくり
2. 同じ悩みを持つ移住者同士の交流の場づくり
3. 移住者の方が気軽に日々の悩みを相談できる体制の整備
4. 移住者を受け入れる側である地域の方の意識改革
5. 特にサポートは必要ない
6. その他()

■ **あなた自身のことについてお伺いします。**

問1 あなたの性別について、あてはまる番号1つに○印をつけてください。

1. 男性 2. 女性

問2 あなたの年齢について、あてはまる番号1つに○印をつけてください。

1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代
5. 50代 6. 60代 7. 70代 8. 80代以上

問3 あなたの居住地域について、あてはまる番号1つに○印をつけてください。

1. 大曲地域 2. 神岡地域 3. 西仙北地域 4. 中仙地域
5. 協和地域 6. 南外地域 7. 仙北地域 8. 太田地域

問4 あなたの職業について、あてはまる番号1つに○印をつけてください。

1. 学生 2. 正規社員・職員 3. 派遣・契約社員
4. 自営業主・家族従業者 5. パート・アルバイト 6. 専業主婦・主夫
7. 無職 8. その他()

問5 あなたは現在、結婚されていますか。あてはまる番号1つに○印をつけてください。

1. 独身 2. 既婚

■ **自由意見**
今回のアンケートの内容に関わらず、市政や今回のアンケートに対するご意見・ご提案などがありましたら記入欄にお書きください。

【記入欄】

以上でアンケートは終了です。ご協力、ありがとうございました。

このアンケート用紙は、同封した返信用封筒に入れて

平成29年9月29日(金)まで投函してください。

